

「あったらいいな」をいちばんに。

**ネオファースト生命**  
第一生命グループ

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

## 2015 年夏のボーナスと 家計の実態調査

～“わが家の生活防衛策”第 30 弾～

2015 年 7 月

**ネオファースト生命保険株式会社**

※当社は、2014 年 11 月 25 日に、社名を「損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社」から「ネオファースト生命保険株式会社」に変更いたしました。



# 目次

■ 調査概要	1
■ 調査結果	5

## I この夏のボーナス

1. この夏のボーナスの手取り額	6
2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較	8
3. ボーナスの今後の見通し	9
4. 今回のボーナスの主な使い道	11
5. 今回のボーナスに満足しているか	15
6. “理想のボーナス額”はいくらか	17
7. 夫には毎月（あるいは定期的に）、小遣いを渡しているか	19
8. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額	20
9. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額	23

## II わが家の家計と金融資産

1. 家計についての現状認識	27
2. 家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出	29
3. 今後の家計の見通し	30
4. 世帯の金融資産の増減	32

## III 夫に内緒の資産

1. 『夫に内緒の資産』の保有状況	36
2. 『夫に内緒の資産』の保有額	38
3. 『夫に内緒の資産』を持つ目的	40
4. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか	41
5. 『夫に内緒の資産』の増減	43
6. 『夫に内緒の資産』の保有形態について	46
7. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し	49

## IV 主婦の健康と美容への投資に対する意識と実態

1. 健康維持や美容のための投資として、お金をかけてやっていることがあるか	51
2. もし、「自分の健康・美容に使うための50万円の臨時ボーナス」が支給されたら、何に使うか	54



# 調査概要

## 1. 調査の目的

ネオファースト生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002年3月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

30回目となる今回は、2015年夏に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦 500名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

## 2. 調査の実施要領

### (1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の20歳から59歳の主婦 500人

<サンプル配分>

合計	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳
500	125	125	125	125

### (2) 調査方法

インターネット調査

### (3) 調査時期

平成27年6月5日（金）～6月14日（日）

### (4) 調査項目

- ・この夏のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額
- ・今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・ボーナス支給額への満足度
- ・自分にとって理想のボーナス額
- ・ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額
- ・家計の現状と今後の家計の見通し
- ・家計の中で削りたくない支出
- ・世帯の金融資産の増減
- ・夫に内緒の資産保有について
- ・健康維持や美容のための投資として、お金をかけてやっていること
- ・「自分の健康・美容に使うための50万円の臨時ボーナス」が支給されたら、何に使うか
- ・回答者と回答者世帯の基本属性（妻の職業、世帯構成、夫の役職、世帯年収、等）

### 3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位＝％）

#### F1. 妻の年齢

（平均：39.6 歳）

サンプル数	20～ 24 歳	25～ 29 歳	30～ 34 歳	35～ 39 歳	40～ 44 歳	45～ 49 歳	50～ 54 歳	55～ 59 歳
500	24	101	66	59	64	61	86	39
100.0	4.8	20.2	13.2	11.8	12.8	12.2	17.2	7.8

#### F2. 妻の職業の有無

サンプル数	正規 有職	パート	専業 主婦
500	139	116	245
100.0	27.8	23.2	49.0

#### F3. 夫の年代

サンプル数	20 代	30 代	40 代	50 歳 以上
500	87	146	134	133
100.0	17.4	29.2	26.8	26.6

#### F4. 夫の勤務先での役職

サンプル数	役職 なし	係長・ 主任 クラス	課長 クラス	部長 クラス 以上
500	227	109	92	72
100.0	45.4	21.8	18.4	14.4

#### F5. 夫の勤務先の業種

サンプル数	水産・ 農林・ 鉱業	建設業	製造業	電気・ ガス業	運輸・ 情報 通信業	商業	金融・ 不動産・ サービ ス業
500	6	37	170	39	72	43	133
100.0	1.2	7.4	34.0	7.8	14.4	8.6	26.6

#### F6. 世帯構成

サンプル数	夫婦 のみ	夫婦と 子	3世代 同居 (4世代 同居を 含む)	親夫婦 と子夫 婦・自分 たち夫 婦と親	その他
500	151	289	49	7	4
100.0	30.2	57.8	9.8	1.4	0.8

F7. 扶養中の子どもはいるか

サンプル数	いる	いない
500	297	203
100.0	59.4	40.6

F8. 住まいの形態

サンプル数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲集合住宅	賃貸集合住宅	社宅・寮
500	235	17	108	121	19
100.0	47.0	3.4	21.6	24.2	3.8

F9. 現在住宅ローンがあるか

サンプル数	ある	ない
500	218	282
100.0	43.6	56.4

F10. 世帯年収(税込み)

サンプル数	400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000万円以上
500	50	147	108	66	129
100.0	10.0	29.4	21.6	13.2	25.8

F11. 居住地区

サンプル数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
500	19	23	250	67	86	20	8	27
100.0	3.8	4.6	50.0	13.4	17.2	4.0	1.6	5.4

※ なお、本調査で表記している割合は、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを表記しています。





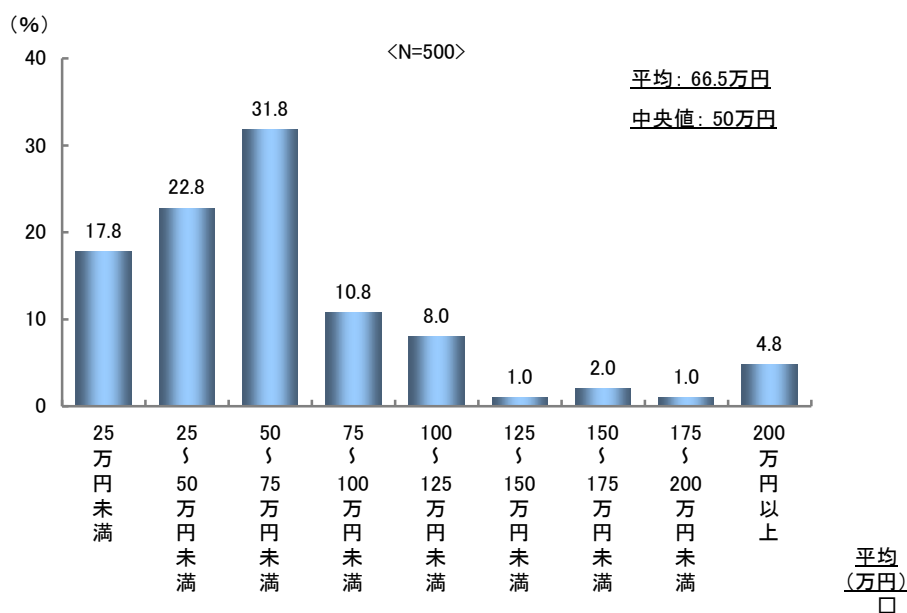
## 調查結果

# I この夏のボーナス

## 1. この夏のボーナスの手取り額

この夏のボーナス平均受給額(手取り)は「66.5万円」で、昨夏(72.2万円)に比べ5.7万円減少している。

図 1. この夏のボーナスの手取り額



妻の年代	ボーナス額 (万円)									平均 (万円)	
	25万円未満	25万円～50万円未満	50万円～75万円未満	75万円～100万円未満	100万円～125万円未満	125万円～150万円未満	150万円～175万円未満	175万円～200万円未満	200万円以上		
20代 <n=125>	17.6	36.8	37.6	5.6	0.8	-	-	-	1.6	46.4	
30代 <n=125>	24.0	21.6	30.4	8.0	7.2	-	1.6	0.8	6.4	65.4	
40代 <n=125>	17.6	17.6	32.8	14.4	8.8	-	1.6	2.4	4.8	69.1	
50代 <n=125>	12.0	15.2	26.4	15.2	15.2	4.0	4.8	0.8	6.4	84.9	
夫の役職	役職なし <n=227>	26.0	30.4	32.2	4.4	3.5	0.4	0.9	-	2.2	48.4
	係長・主任クラス <n=109>	12.8	22.9	43.1	12.8	4.6	0.9	-	-	2.8	58.3
	課長クラス以上 <n=164>	9.8	12.2	23.8	18.3	16.5	1.8	4.9	3.0	9.8	96.8

※『この夏のボーナス』とは2015年夏に夫が受給したボーナスを指し、妻や子どもなど他の家族が受給したボーナスは含みません。

夫が受給したこの夏のボーナスは、手取り額でいくらだったのでしょうか。

「50～75万円未満」(31.8%)が最も多く、次いで「25～50万円未満」(22.8%)、この両者を合わせた「25～75万円未満」という人が半数以上(54.6%)を占めています。以下「25万円未満」(17.8%)、「75～100万円未満」(10.8%)、「100～125万円未満」(8.0%)が続き、平均は「66.5万円」となっています。

- 妻の年代別に受給額の平均をみると、年代が上の人ほど受給額も多く、《20代》(46.4万円)と《50代》(84.9万円)とでは約40万円(38.5万円)の差が生じています。

- 夫の役職別に平均をみると、役職が上がるとともに金額は高くなり、《役職なし》(48.4万円)や《係長・主任クラス》(58.3万円)と《課長クラス以上》(96.8万円)では大きな差がみられます。

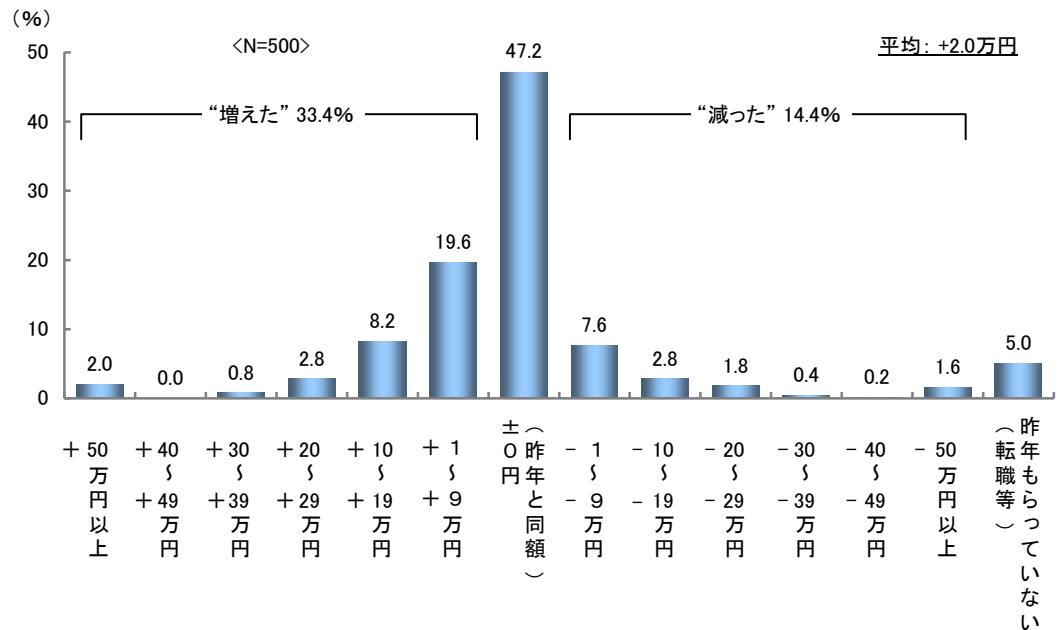
## ■昨夏の調査結果との比較■

平均額は「72.2万円」→「66.5万円」と、約6万円減少しています。昨夏、2008年以来6年ぶりに70万円台に達した平均受給額ですが、今夏、再び60万円台（2013年：69.9万円）にダウンするという結果になっています。世間ではアベノミクス効果で“好景気”と言われていますが、今夏のボーナスにはあまり影響していない人も多いようです。

## 2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較

「昨年と同額」(47.2%)がほぼ半数を占めるが、「増えた」(33.4%)の方が「減った」(14.4%)を20ポイント近くも上回る。  
 ※「増えた」は、「+1~9万円」から「+50万円以上」の合計、「減った」は、「-1~-9万円」から「-50万円以上」の合計を表わします。

図 2. この夏のボーナスと昨年夏のボーナスとの増減比較



妻の年代	20代 <n=125>	30代 <n=125>	40代 <n=125>	50代 <n=125>
妻の年代	1.6	2.4	1.6	2.4
夫の役職	0.9	2.8	3.0	0.9

次に、昨年夏と比べてこの夏のボーナスの増減をみると、「±0円 (昨年と同額)」(47.2%)が半数近くを占めています。変動があった人では「増えた」(33.4%)の方が「減った」(14.4%)よりも20ポイント近く多くなっています。

- ・妻の年代別にみると、「増えた」割合は《20代》～《40代》の3割台に比べ、《50代》(25.6%)の低さが目につき、「減った」(20.8%)が5人に1人の割合となっています。
- ・夫の役職別にみると、「増えた」という割合は《係長・主任クラス》(36.7%)、《課長クラス以上》(36.0%)に比べ、《役職なし》(30.0%)の人はやや低めです。

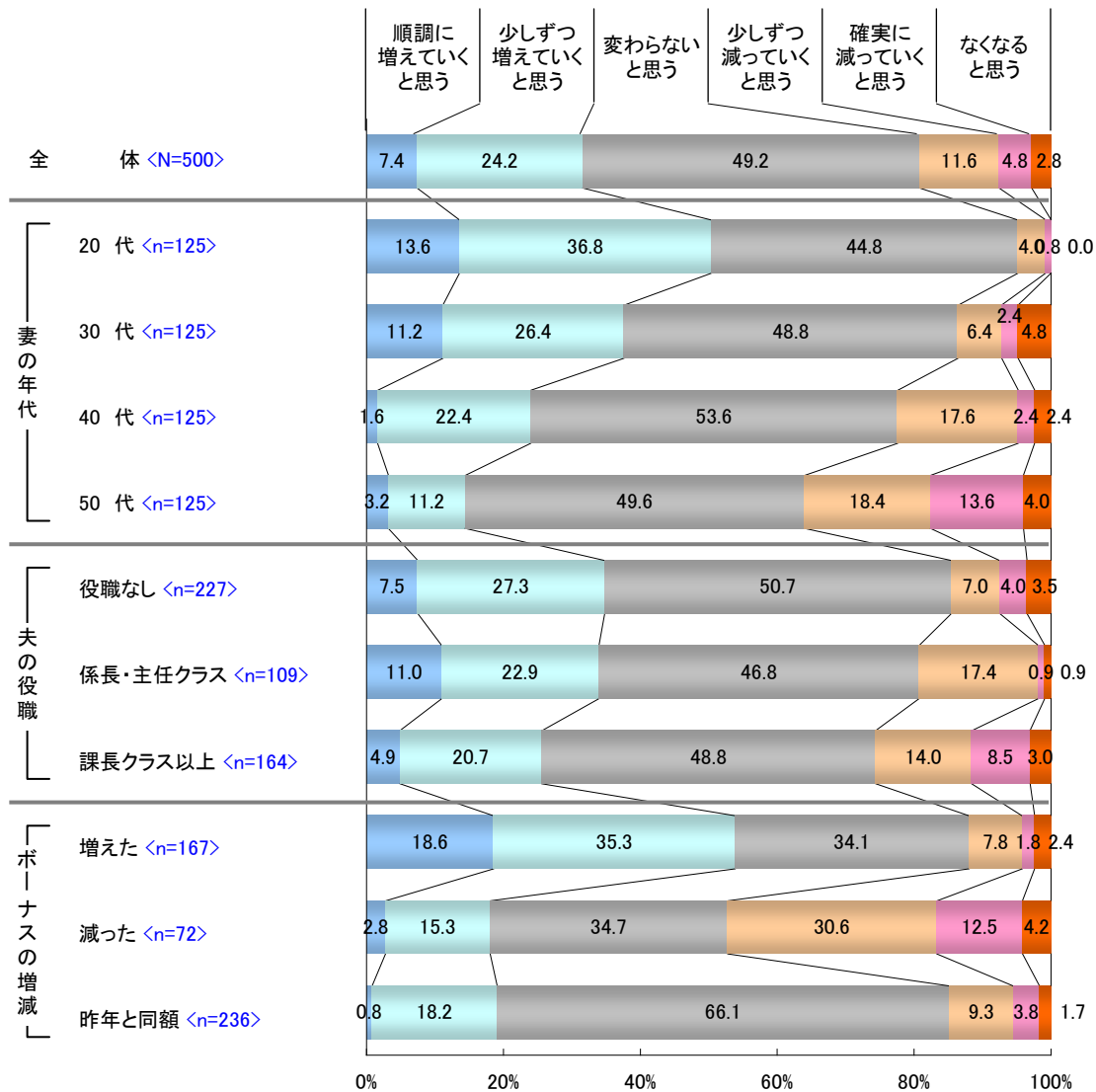
### ■昨夏の調査結果との比較■

増減の傾向をみると、「増えた」(35.0%→33.4%)、「同額」(44.8%→47.2%)、「減った」(15.0%→14.4%)と大きな違いはありません。

### 3. ボーナスの今後の見通し

「変わらないと思う」(49.2%)が半数を占めているが、“増えていくと思う”(31.6%)と明るい見通しの方が、“減っていく+なくなると思う”(19.2%)より10ポイント強上回る。

図 3. ボーナスの今後の見通し



今後の夫のボーナスの見通しについて聞いてみたところ、「変わらないと思う」(49.2%)が半数を占めています。が、「順調に増えていくと思う」(7.4%)、「少しずつ増えていくと思う」(24.2%)を合わせた“増えていくと思う”(31.6%)という見通しの方が、「少しずつ減っていくと思う」(11.6%)、「確実に減っていくと思う」(4.8%)、「なくなると思う」(2.8%)を合わせた“減っていく+なくなると思う”(19.2%)という見通しよりも10ポイント強多くなっています。

- ・妻の年代別にみると、若い年代ほど“増えていくと思う”割合は高くなっており、《20代》(50.4%)では半数に達しているのに対し、《50代》(14.4%)では1割台にとどまり、“減っていく+なくなると思う”(36.0%)という見通しの方が多くなっています。

- ・夫の役職別にみると、役職が下の人ほど“増えていくと思う”との見通しが強くなっています。
- ・前述した今夏のボーナスの増減別にみると、《増えた》人の半数強（53.9%）は“増えていくと思う”と明るい見通しを持っているのに対し、《減った》人では“減っていく＋なくなると思う”（47.2%）がほぼ半数を占め、“増えていくと思う”（18.1%）という見通しの方は2割弱にとどまっています。また、《昨年と同額》という人では、今後も「変わらないと思う」（66.1%）という見通しが圧倒的に多くなっています。

#### ■昨夏の調査結果との比較■

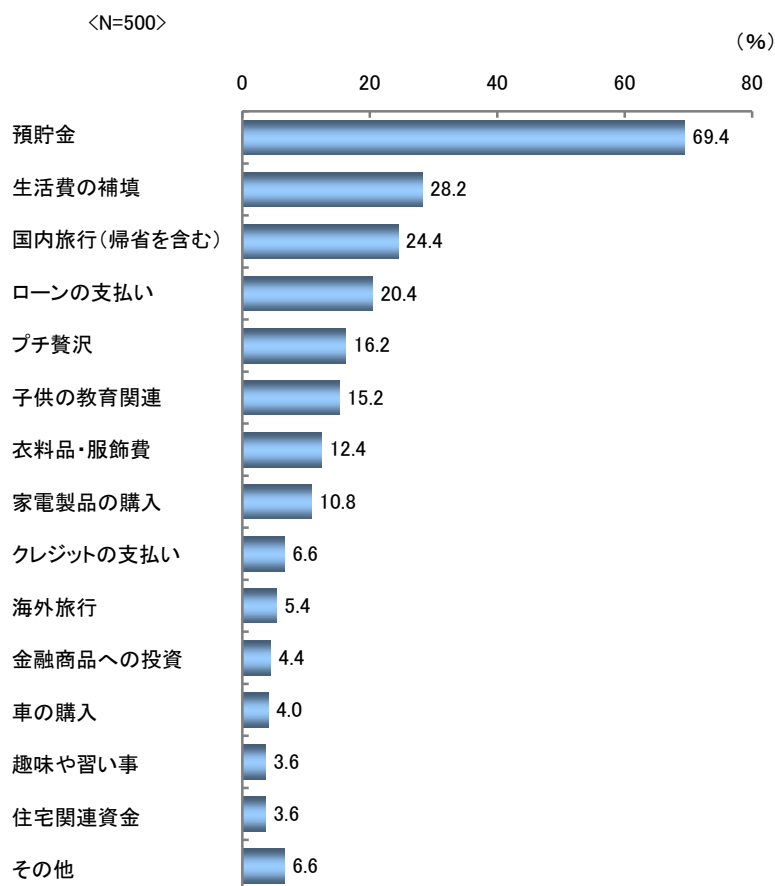
“増えていくと思う”（28.2%→31.6%）、「変わらないと思う」（51.0%→49.2%）、“減っていく＋なくなると思う”（20.8%→19.2%）と推移しており、今後の見通しに対する意識の変化はあまりみられません。

#### 4. 今回のボーナスの主な使い道

昨夏と同様「預貯金」(69.4%)が群を抜いて多く、以下「生活費の補填」(28.2%)、「国内旅行(帰省を含む)」(24.4%)、「ローンの支払い」(20.4%)、「プチ贅沢」(16.2%)、「子供の教育関連」(15.2%)が続く。

●ボーナス総額に占める各用途別金額の内訳は、「預貯金」(45.3%)が半数近くを占める。

図 4. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答）



今回のボーナスの使い道についてみると、「預貯金」(69.4%)が群を抜いて多くなっており、そのほか「生活費の補填」(28.2%)や「ローンの支払い」(20.4%)も多く、“将来への備え”や“家計のやりくり”に使う人が多くなっています。そのほかでは、「国内旅行(帰省を含む)」(24.4%)、「プチ贅沢」(16.2%)、「子供の教育関連」(15.2%)、「衣料品・服飾費」(12.4%)、「家電製品の購入」(10.8%)などがあげられています。

表 1. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答：属性別）

		サンプル数	預貯金	生活費の補填	国内旅行（帰省を含む）	ローンの支払い	プチ贅沢	子供の教育関連	衣料品・服飾費	家電製品の購入	クレジットカードの支払	海外旅行	金融商品への投資	車の購入	趣味や習い事	住宅関連資金	その他
全 体		500	69.4	28.2	24.4	20.4	16.2	15.2	12.4	10.8	6.6	5.4	4.4	4.0	3.6	3.6	6.6
妻の年代	20代	125	70.4	22.4	20.0	18.4	16.0	11.2	6.4	10.4	7.2	3.2	4.8	4.8	2.4	3.2	6.4
	30代	125	72.0	25.6	28.8	21.6	12.8	11.2	12.0	8.8	6.4	8.0	0.8	2.4	3.2	3.2	6.4
	40代	125	64.8	35.2	25.6	25.6	16.0	23.2	12.0	11.2	8.8	4.8	4.0	2.4	2.4	3.2	4.8
	50代	125	70.4	29.6	23.2	16.0	20.0	15.2	19.2	12.8	4.0	5.6	8.0	6.4	6.4	4.8	8.8
子供	いる	297	67.0	31.3	23.2	21.2	16.5	23.2	11.8	10.8	7.1	5.1	3.4	4.4	2.4	3.0	6.4
	いない	203	72.9	23.6	26.1	19.2	15.8	3.4	13.3	10.8	5.9	5.9	5.9	3.4	5.4	4.4	6.9
ローン	ある	218	60.1	30.3	19.7	35.8	15.6	16.5	12.4	8.7	7.3	4.1	2.8	4.1	4.1	2.3	8.3
	ない	282	76.6	26.6	28.0	8.5	16.7	14.2	12.4	12.4	6.0	6.4	5.7	3.9	3.2	4.6	5.3
世帯年収	600万円未満	197	68.5	37.1	23.9	21.3	14.2	14.7	12.7	8.6	10.2	2.5	-	2.0	3.6	3.6	7.6
	600～800万円未満	108	68.5	28.7	27.8	22.2	15.7	13.9	10.2	9.3	7.4	5.6	5.6	3.7	1.9	1.9	5.6
	800～1000万円未満	66	72.7	21.2	21.2	21.2	19.7	19.7	12.1	7.6	-	3.0	4.5	4.5	3.0	6.1	7.6
	1000万円以上	129	69.8	17.8	24.0	17.1	17.8	14.7	14.0	17.1	3.9	10.9	10.1	7.0	5.4	3.9	5.4
受給額	50万円未満	203	61.1	29.1	20.7	18.2	11.3	10.8	8.4	6.9	9.9	3.9	2.5	3.0	2.0	1.5	7.9
	50～100万円未満	213	74.2	29.1	23.0	19.7	19.2	16.9	13.1	10.8	4.2	5.2	2.8	3.8	5.6	4.2	4.7
	100万円以上	84	77.4	23.8	36.9	27.4	20.2	21.4	20.2	20.2	4.8	9.5	13.1	7.1	2.4	7.1	8.3

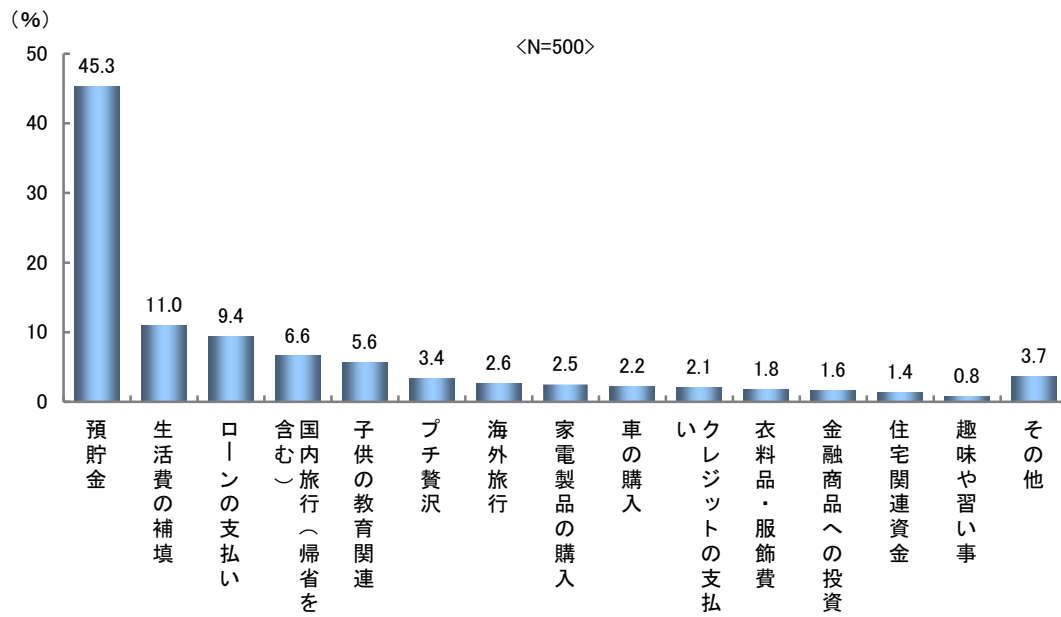
- ・妻の年代別にみると、いずれも「預貯金」が群を抜いていますが、《40代》で「生活費の補填」（35.2%）、「ローンの支払い」（25.6%）、「子供の教育関連」（23.2%）が他の年代に比べて高めなのが目につきます。また、「国内旅行（帰省を含む）」は《30代》（28.8%）では預貯金に次いで多い結果となっています。
- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、扶養中の子供が《いる》人では「子供の教育関連」（23.2%）の割合が高いが目立ちます。
- ・住宅ローンの有無別にみると、ローンが《ある》人では3人に1人強が「ローンの支払い」（35.8%）をあげています。
- ・世帯年収別でみると、世帯年収に関係なく「預貯金」が7割前後で圧倒的に多くなっています。また、「生活費の補填」は年収の少ない層ほど高い割合となっており、年収《600万円未満》（37.1%）と《1,000万円以上》（17.8%）の人では20ポイント近い差が生じています。また、《1,000万円以上》の世帯では「海外旅行」（10.9%）、「家電製品の購入」（17.1%）、「金融商品への投資」（10.1%）がいずれも1割台で、他の層に比べて高めなのが目につきます。
- ・ボーナス受給額別にみると、やはりいずれも「預貯金」が最も多くなっていますが、その割合は受給額が多い人ほど高くなっています。また、「国内旅行（帰省含む）」「ローンの支払い」「子供の教育関連」「プチ贅沢」「家電製品の購入」「衣料品・服飾費」なども同様の傾向がみられます。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏も第1位の「預貯金」（70.0%→69.4%）、第2位の「生活費の補填」（29.8%→28.2%）は同程度で推移していますが、続く「国内旅行（帰省含む）」（28.8%→24.4%）、「ローンの支払い」（24.0%→20.4%）、「プチ贅沢」（18.0%→16.2%）、「子供の教育関連」（18.0%→15.2%）などはわずかに減少傾向がみられます。



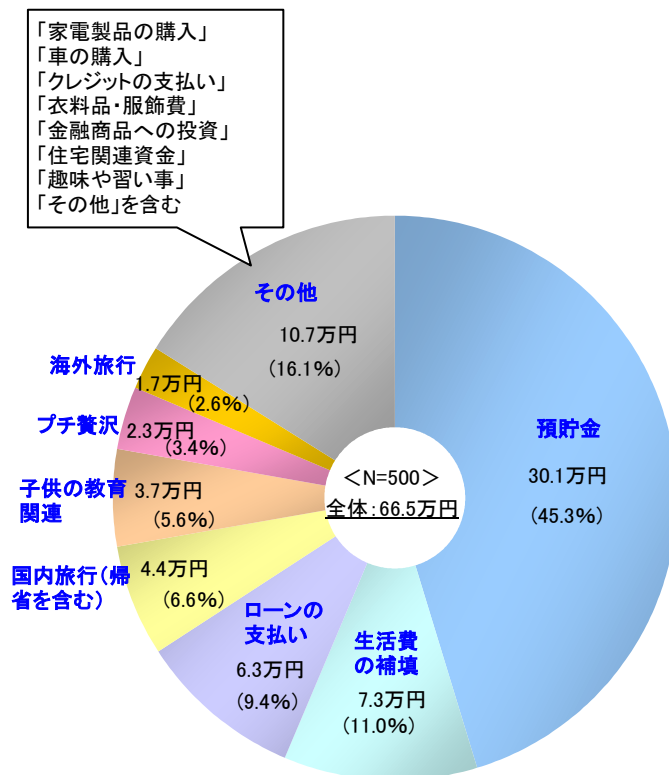
図 5. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（平均値）



次に、夏のボーナス全額を「10割」とした場合、それぞれの使い道が何割を占めるか答えてもらいました（グラフは平均値を100%に換算したもの）。

割合の平均値（100%換算）をみると、「預貯金」（45.3%）が圧倒的に高く、ボーナス総額の半分近くが預貯金に回されている計算になります。そのほか「生活費の補填」（11.0%）、「ローンの支払い」（9.4%）、「国内旅行（帰省を含む）」（6.6%）、「子供の教育関連」（5.6%）などの順となっています。

図 6. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合(この夏のボーナス平均手取額 66.5 万円を総額とし、金額に換算)



参考までに、今回の夏のボーナスの平均手取額「66.5万円」を前ページの割合で配分した場合、それぞれの使い道がいくらになるかをみると、トップの「預貯金」は「30.1万円」となりました。

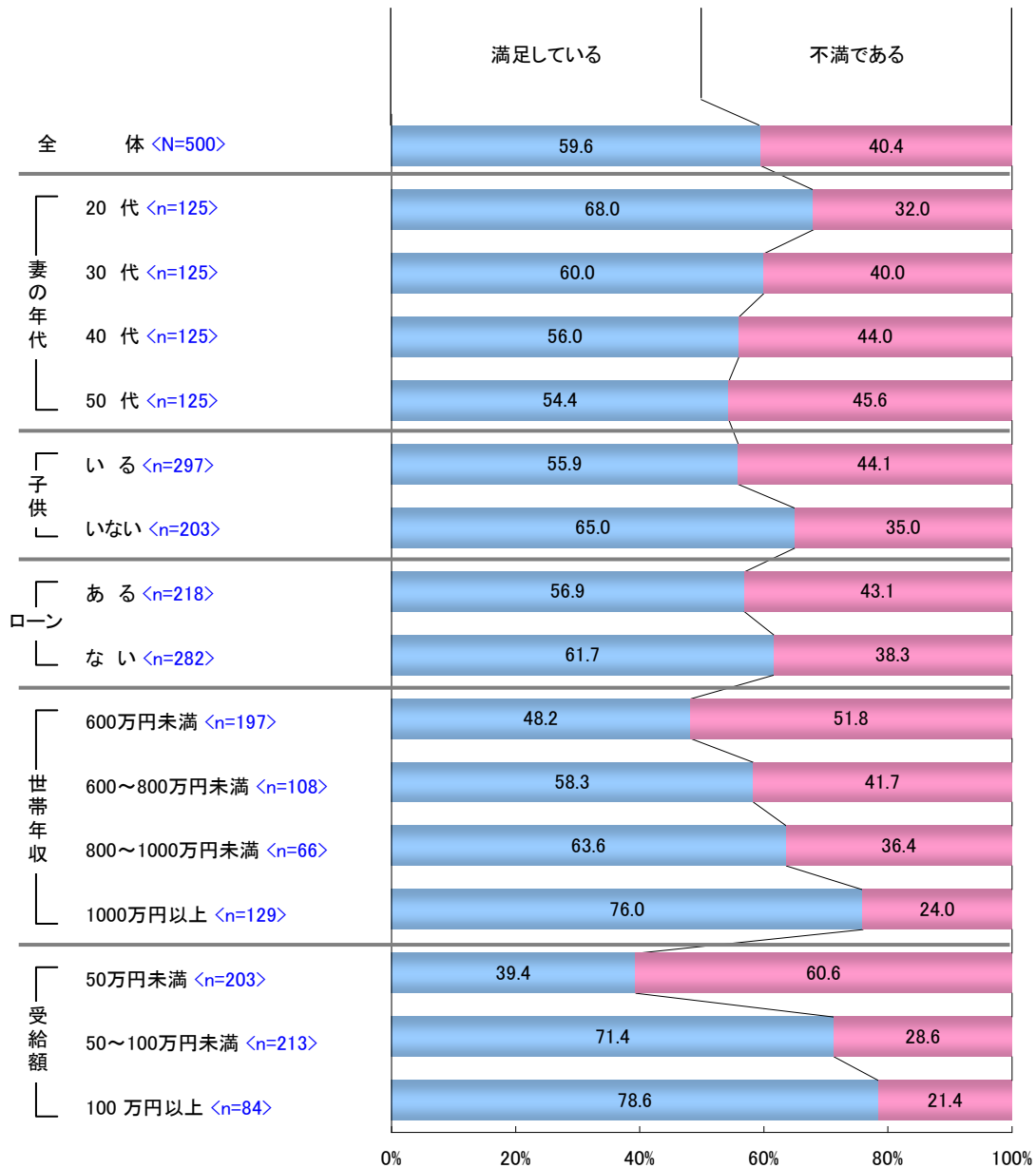
※例えば「国内旅行(帰省を含む)」は「4.4万円」と、実際にはもっと費用がかかることが多いはずですが、500名の回答を平均でならずと、一家庭当たり「4.4万円」に当たることを示しています。

## 5. 今回のボーナスに満足しているか

「満足している」(59.6%)が過半数を占めているが、5人に2人が「不満である」(40.4%)。

●支給額が“50万円未満”では、「不満である」(60.6%)が過半数。

図 7. 夫のボーナスの支給額に満足しているか



今回の夫のボーナスの支給額に満足しているか聞いてみたところ、「満足している」(59.6%)が過半数を占めていますが、5人に2人が「不満である」(40.4%)という結果となっています。

- ・妻の年代別にみると、若い年代ほど「満足している」割合は高くなっていますが、いずれの年代も過半数を占めています。
- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、「満足している」割合は扶養中の子供が《いない》人(65.0%)の方が《いる》人(55.9%)より10ポイントほど高くなっています。

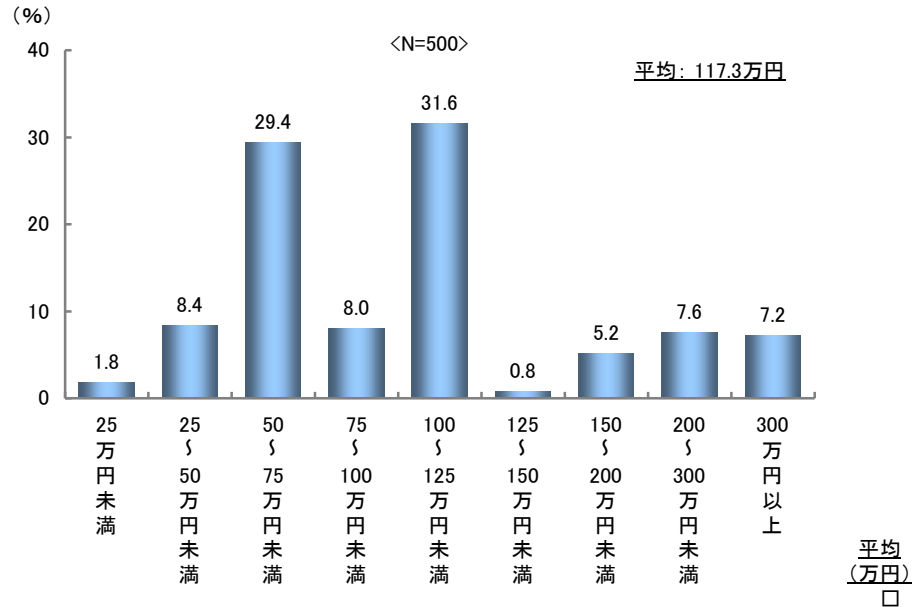
- ・住宅ローンの有無別にみると、ローンが《ある》人（56.9%）より《ない》人（61.7%）の方が「満足している」割合が高めです。
- ・世帯年収別でみると、世帯年収が高い層ほど「満足している」割合が高くなっています。年収《600万円未満》の層では「満足している」（48.2%）と「不満である」（51.8%）にほぼ二分されています。
- ・ボーナス受給額別にみると、受給額が多い人ほど「満足している」割合が高くなっています。受給額《50万円未満》では「満足している」（39.4%）は4割にとどまり、「不満である」（60.6%）が過半数を占めています。

## 6. “理想のボーナス額”はいくらか

“50～100 万円未満”(37.4%)、“100～150 万円未満”(32.4%)の範囲を理想とする人が7割(69.8%)を占め、平均「117.3 万円」。

◆<今回の支給額>と<理想のボーナス額>の差は、「20～30 万円未満」(17.8%)、「10～20 万円未満」(15.0%)が多く、平均「50.8 万円」。

図 8. “理想のボーナス額”



		25万円未満	25万円～50万円未満	50万円～75万円未満	75万円～100万円未満	100万円～125万円未満	125万円～150万円未満	150万円～200万円未満	200万円～300万円未満	300万円以上	平均 (万円)
妻の年代	20代 <n=125>	1.6	12.0	52.8	7.2	21.6	-	0.8	2.4	1.6	74.8
	30代 <n=125>	4.8	7.2	28.0	6.4	34.4	0.8	4.0	7.2	7.2	126.3
	40代 <n=125>	0.8	9.6	19.2	9.6	40.0	0.8	5.6	8.8	5.6	112.2
	50代 <n=125>	-	4.8	17.6	8.8	30.4	1.6	10.4	12.0	14.4	155.9
世帯年収	600万円未満 <n=197>	3.0	19.8	41.1	8.1	22.8	0.5	1.0	2.5	1.0	74.2
	600～800万円未満 <n=108>	0.9	0.9	28.7	11.1	45.4	-	7.4	2.8	2.8	99.6
	800～1000万円未満 <n=66>	-	1.5	13.6	10.6	43.9	3.0	9.1	10.6	7.6	134.2
	1000万円以上 <n=129>	1.6	0.8	20.2	3.9	27.1	0.8	7.8	17.8	20.2	189.3
受給額	50万円未満 <n=203>	4.4	20.7	48.3	4.4	19.2	-	1.5	1.0	0.5	61.8
	50～100万円未満 <n=213>	-	-	23.0	14.6	50.2	0.9	4.2	5.2	1.9	107.9
	100万円以上 <n=84>	-	-	-	-	14.3	2.4	16.7	29.8	36.9	275.4

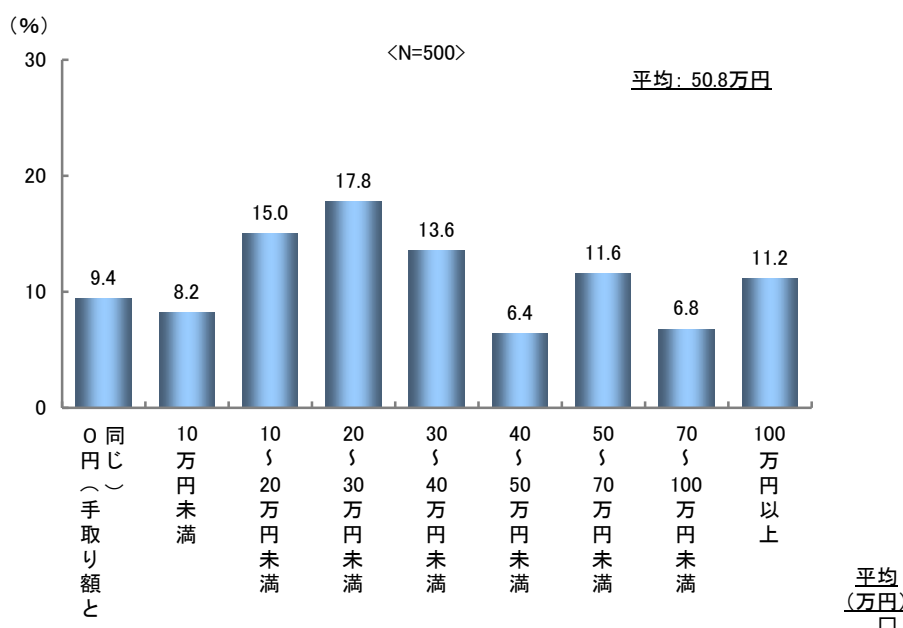
主婦にとって、“理想のボーナス額”とはいくらくらいと考えているのでしょうか。

「100～125 万円未満」(31.6%) や「50～75 万円未満」(29.4%) と考えている人が 3 割前後で多くなっています。これを“50～150 万円未満”の範囲で見ると、7 割 (69.8%) の人はこの範囲をあげています。平均は「117.3 万円」です。

- ・妻の年代別に平均をみると、若い《20代》では「74.8 万円」と他の年代に比べて低くなっています。そして、今回の受給額の平均が最も多かった《50代》が「155.9 万円」で最も多くなっており、総じて年齢が上がるとともに“理想のボーナス額”も高くなっていますが、《30代》(126.3 万円) と《40代》(112.2 万円) では逆に《30代》の方が高い金額となっています。
- ・世帯年収別で見ると、世帯年収が多い層ほど平均も高く、年収《600 万円未満》(74.2 万円) と《1000 万円以上》(189.3 万円) の層では 100 万円以上の開きが生じています。

- ・ボーナス受給額別にみると、受給額が多い人ほど平均も多く、受給額《50万円未満》(61.8万円)、《50～100万円未満》(107.9万円)、《100万円以上》(275.4万円)と、かなりの差がみられます。

図 9. 実際の受給額と“理想のボーナス額”の差



		0円(手取り額と同じ)	10万円未満	10万円～20万円未満	20万円～30万円未満	30万円～40万円未満	40万円～50万円未満	50万円～70万円未満	70万円～100万円未満	100万円以上	平均(万円)
妻の年代	20代 <n=125>	13.6	15.2	22.4	16.0	12.0	6.4	6.4	4.0	4.0	28.4
	30代 <n=125>	8.0	11.2	12.8	16.8	14.4	8.8	9.6	7.2	11.2	61.0
	40代 <n=125>	6.4	3.2	17.6	16.8	15.2	4.8	17.6	10.4	8.0	43.0
	50代 <n=125>	9.6	3.2	7.2	21.6	12.8	5.6	12.8	5.6	21.6	71.0
世帯年収	600万円未満 <n=197>	4.1	12.7	23.9	18.3	16.8	3.6	12.2	5.1	3.6	35.6
	600～800万円未満 <n=108>	4.6	5.6	12.0	20.4	15.7	13.9	12.0	8.3	7.4	40.5
	800～1000万円未満 <n=66>	10.6	4.5	12.1	18.2	15.2	4.5	15.2	4.5	15.2	57.4
	1000万円以上 <n=129>	20.9	5.4	5.4	14.7	6.2	5.4	8.5	9.3	24.0	79.5
受給額	50万円未満 <n=203>	1.5	14.3	22.7	18.2	13.3	4.4	10.3	11.3	3.9	34.4
	50～100万円未満 <n=213>	13.1	5.2	11.7	21.6	15.0	9.9	13.6	2.8	7.0	43.0
	100万円以上 <n=84>	19.0	1.2	4.8	7.1	10.7	2.4	9.5	6.0	39.3	110.5

次に、“理想のボーナス額”と実際の受給額との差をみてみます。

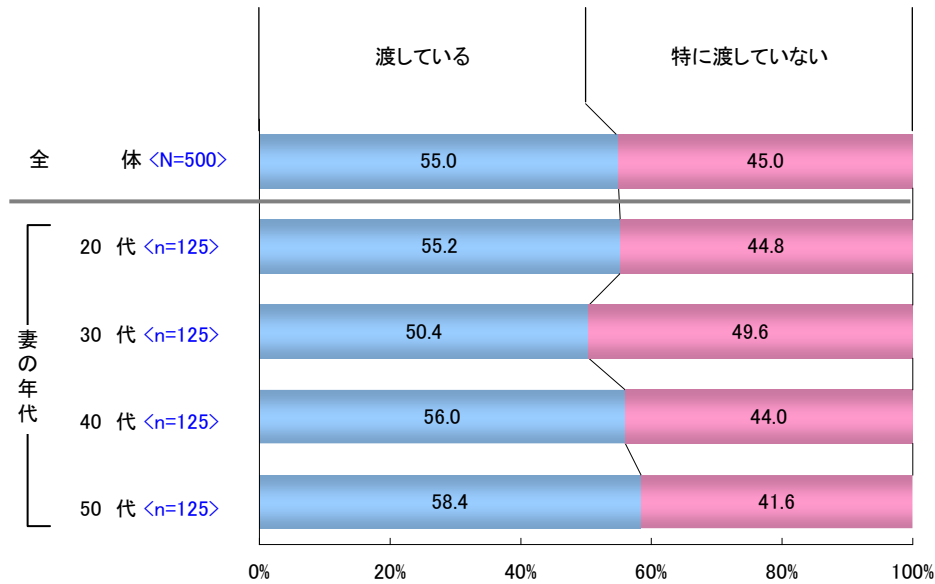
「0円(手取り額と同じ) (9.4%) という人も1割近くみられますが、分布としては「20～30万円未満」(17.8%) が最も多く、以下「10～20万円未満」(15.0%)、「30～40万円未満」(13.6%)、「50～70万円未満」(11.6%)、「100万円以上」(11.2%) が1割台で続いています。平均は「50.8万円」です。

- ・妻の年代別に平均をみると、若い《20代》では「28.4万円」と他の年代に比べて低くなっています。今回の受給額の平均が最も多かった《50代》は「71.0万円」で、《30代》(61.0万円)、《40代》(43.0万円)を抜き最も多くなっています。
- ・世帯年収別でみると、世帯年収が多い層ほど平均も高く、年収《600万円未満》(35.6万円)の層に比べて、《1000万円以上》(79.5万円)の層では2倍以上の額となっています。
- ・ボーナス受給額別にみると、受給額が多い人ほど平均も多く、受給額《50万円未満》(34.4万円)、《50～100万円未満》(43.0万円)、《100万円以上》(110.5万円)と、かなりの差がみられます。

## 7. 夫には毎月（あるいは定期的に）、小遣いを渡しているか

「渡している」(55.0%)と「特に渡していない」(45.0%)にほぼ二分。

図 10. 夫には毎月（あるいは定期的に）、小遣いを渡しているか



夫に毎月（あるいは定期的に）、小遣いを「渡している」(55.0%)という人が過半数を占めていますが、「特に渡していない」(45.0%)という人も相当数みられ、ほぼ二分されています。

- ・妻の年代別にみると、いずれも5割台が「渡している」と回答していますが、《30代》(50.4%)が他の年代に比べて低めです。

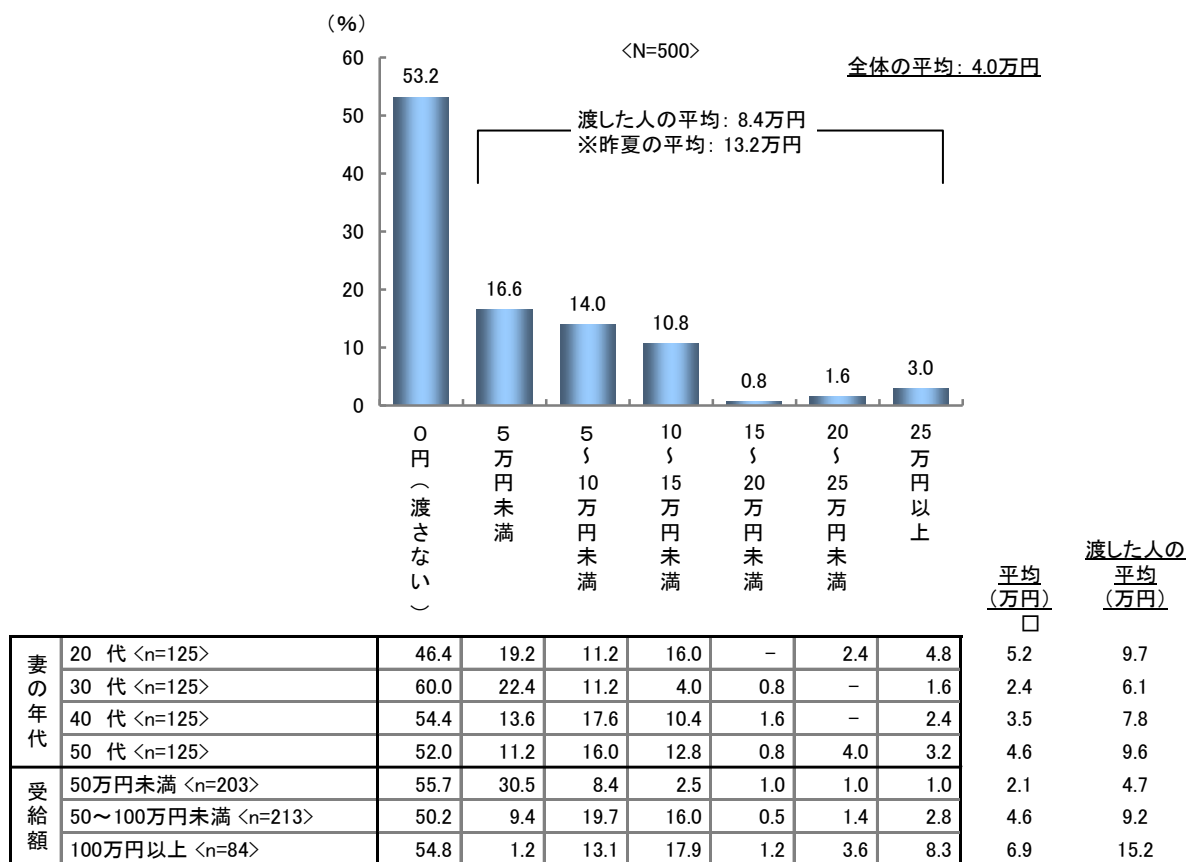
## 8. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額

「0円（渡さない）」(53.2%)人が半数強を占める。

“渡した（渡そうと思っている）”人(46.8%)では、「5万円未満」(16.6%)、「5～10万円未満」(14.0%)、「10～15万円未満」(10.8%)などの順で、“渡した（渡そうと思っている）”人の平均金額は「8.4万円」。

◆渡さない理由は、「必要な時にはその都度渡しているの」(34.2%)が第一。以下「ボーナスの使い道が既に決まっているの」、「自分のお小遣いは夫が前もってとってしまうの」(各 16.9%)、「もらったボーナスが少ないの」、「毎月お小遣いを渡しているの」(各 15.4%)、「将来に備えることの方が大事なの」(14.7%)などの順。

図 11. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額



今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を具体的に聞いてみました。

「5万円未満」(16.6%)、「5～10万円未満」(14.0%)、「10～15万円未満」(10.8%)など、夫に小遣いとして“渡した、あるいは渡そうと思っている”人は合わせて46.8%で、「0円（渡さない）」(53.2%)という人が半数強を占めています。平均は、「0円（渡さない）」人を含めた全体で見ると「4.0万円」、「渡した（渡そうと思う）」人に限ってみると「8.4万円」です。

- ・妻の年代別に“渡した（渡そうと思う）”人の平均金額をみると、トップは《20代》(9.7万円)で、《30代》(6.1万円)が最も少なくなっています。30代以降は年代が上の人ほど高くなっており《40代》(7.8万円)、《50代》(9.6万円)となっています。

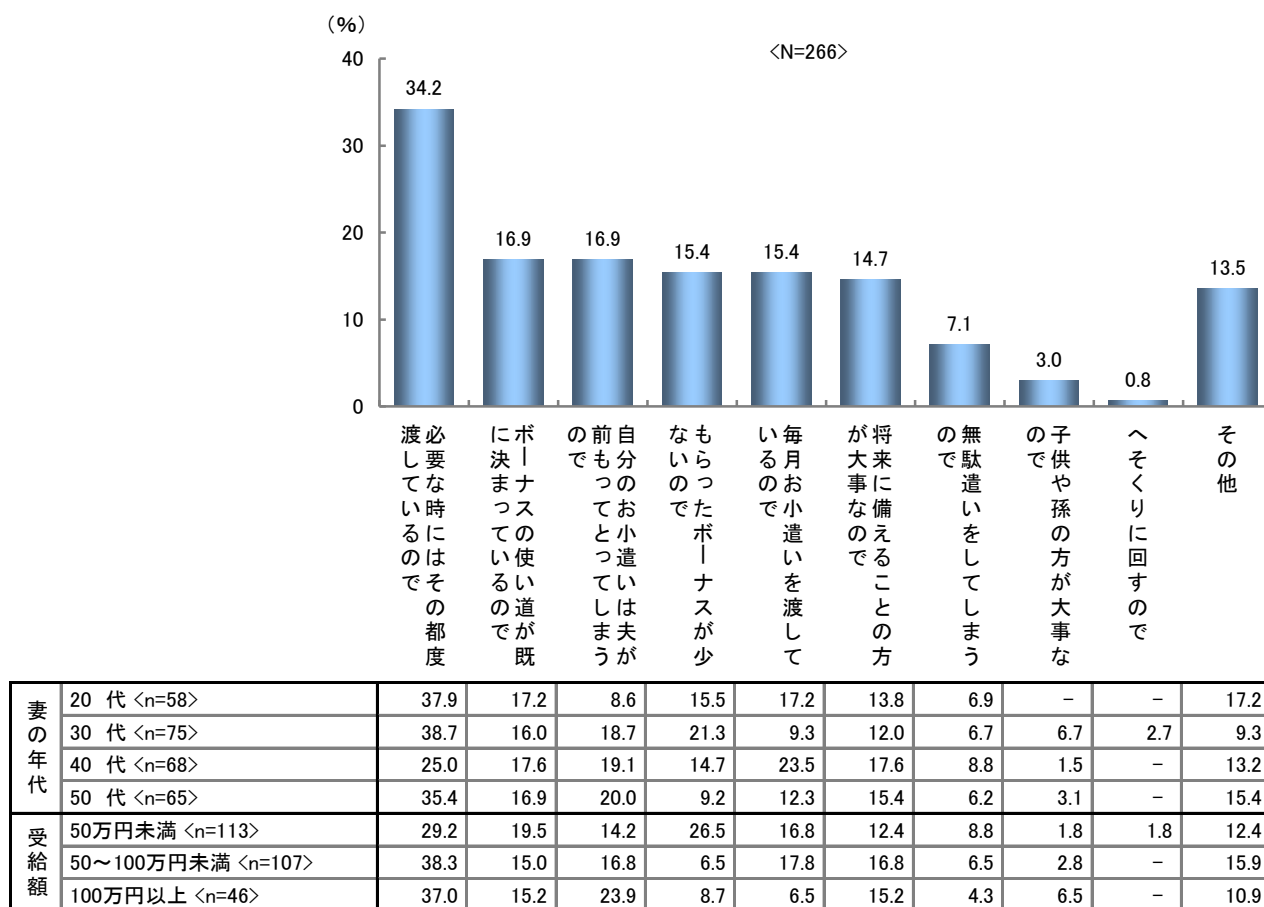


- ・ボーナスの受給額別にみると、受給額が多い人ほど渡した平均金額も多くなっています。受給額《50万円未満》の「4.7万円」に対して《100万円以上》の人では「15.2万円」と10万円強の差がみられます。

### ■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、“渡した（渡そうと思う）”の割合は49.0%→46.8%と、ややダウンしていますが、渡した額の平均は13.2万円→8.4万円で、約5万円（4.8万円）、率にして昨夏の3分の1強（36.4%）ダウンしています。

図 12. 「渡さない」理由（複数回答）



では、なぜボーナスの中から夫に小遣いを渡さないのでしょうか。

その理由をみると、「必要な時にはその都度渡している」（34.2%）が最も多く、以下「ボーナスの使い道が既に決まっているので」、「自分のお小遣いは夫が前もってとってしまうので」（各16.9%）、「もらったボーナスが少ないので」、「毎月お小遣いを渡している」（各15.4%）、「将来に備えることの方が大事な」（14.7%）がそれぞれ1割台で続いています。

- ・妻の年代別にみると、いずれも「必要な時にはその都度渡している」が最も多くなっていますが、年代が上の人ほど「自分のお小遣いは夫が前もってとってしまうので」をあげる割合が高くなっています。
- ・ボーナスの受給額別にみると、受給額が少ない人ほど「もらったボーナスが少ないので」の割合が高い傾向がみられ、《50万円未満》（26.5%）の人では第2位の理由にランクされています。

## ■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、1位の項目「必要な時にはその都度渡しているのよ」(31.8%→34.2%)は変わりませんが、昨夏2位の「毎月お小遣いを渡しているのよ」(31.4%→15.4%)が半減しているのが目につきます。一方、「自分のお小遣いは夫が前もってとってしまうのよ」(8.2%→16.9%)という理由は増えています。

## 9. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額

＜芸能界＞では「嵐」(8件)、＜スポーツ界＞では「錦織圭」(101件)、＜その他の分野＞では「安倍晋三」(7件)がそれぞれトップ。

◆渡してあげたいボーナス金額(平均)は、「嵐」(8件:6,726万円)、「明石家さんま」(3件:3,370万円)、「イチロー」(20件:2,147万円)がトップ3。以下「タモリ」(3件:1,840万円)、「錦織圭」(101件:1,825万円)、「中畑清」(3件:1,020万円)も“1,000万円以上”渡してあげたい。

2015 年前半に活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、芸能界、スポーツ界、その他の分野に分けて自由にあげてもらいました。

表 2. 臨時ボーナスをあげたいと思う人 (芸能界)

芸能界			平均金額 (万円) □	最高額 (万円)
順位		件数		
1	嵐	8	6,726	50,000
2	マツコ・デラックス	7	144	500
3	坂上忍	4	325	1,000
	指原莉乃	4	225	400
5	AKB48	3	137	300
	DAIGO	3	80	100
	明石家さんま	3	3,370	10,000
	有吉弘行	3	100	100
	タモリ	3	1,840	5,000

まず＜芸能界＞では、トップは「嵐」(8件)、次いで「マツコ・デラックス」(7件)、「坂上忍」、「指原莉乃」(各4件)が上位にあげられています。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、1位の「嵐」(6,726万円)や「明石家さんま」(3件:3,370万円)、「タモリ」(3件:1,840万円)が“1,000万円以上”と特に高くなっています。

表 3. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（スポーツ界）

スポーツ界			平均金額 (万円)	最高額 (万円)
順位		件数		
1	錦織圭	101	1,825	50,000
2	イチロー	20	2,147	10,000
3	浅田真央	11	234	1,000
4	羽生結弦	7	243	500
5	中畑清	3	1,020	3,000
6	澤穂希	3	283	700

＜スポーツ界＞では、テニス界から世界の各大会で大活躍の「錦織圭」（101件）が群を抜いています。以下「イチロー」（20件）、オリンピック以降も現役続行か否かなどで話題の「浅田真央」（11件）、金メダリストの「羽生結弦」（7件）が続いています。

渡してあげたいボーナス金額（平均）は、圧倒的支持の「錦織圭」（1,825万円）より2位の「イチロー」（2,147万円）の方が多くなっています。

表 4. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（その他）

その他			平均金額 (万円)	最高額 (万円)
順位		件数		
1	安倍晋三	7	286	1,000
2	自分	4	114	300
3	ふなっしー	3	133	300

＜その他の分野＞では、回答数がかなり少ないのですが、「安倍晋三」（7件）、「自分」（4件）、「ふなっしー」（3件）が上位にランクされています。

渡してあげたいボーナス金額（平均）は、「安倍晋三」が「286万円」、「自分」に対しては「114万円」、「ふなっしー」が「133万円」となっています。

表 5. <参考：総合得票・ボーナス金額（平均）トップ10>

順位		得票数
1	錦織圭	101
2	イチロー	20
3	浅田真央	11
4	嵐	8
5	マツコ・デラックス	7
	羽生結弦	7
	安倍晋三	7
8	坂上忍	4
	指原莉乃	4
	自分	4

順位		平均金額 (万円)
1	嵐	6,726
2	明石家さんま	3,370
3	イチロー	2,147
4	タモリ	1,840
5	錦織圭	1,825
6	中畑清	1,020
7	坂上忍	325
8	安倍晋三	286
9	澤穂希	283
10	羽生結弦	243

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の第1位と比べると、

- 【芸能界】 「タモリ」(10件) → 「嵐」(8件)  
 【スポーツ界】 「浅田真央」(38件) → 「錦織圭」(101件)  
 【その他】 「自分」(3件) → 「安倍晋三」(7件)

となっており、【スポーツ界】での「錦織圭」の得票数に多さが注目されます。ちなみに、過去10年間で100件以上を獲得したのは、2009年夏調査の「イチロー」(107件)だけです。

なお、過去10年間のトップ5は次ページの表の通りとなっています。

表 6. <参考：過去 10 年間のトップ 5>

年	順位	芸能界		スポーツ界		その他		
			件数		件数		件数	
2006年	1	倅田來未	11	荒川静香	68	小泉純一郎	5	
	2	SMAP	6	イチロー	33			
	3	みのもんた	5	WBC日本チーム	20			
	4	KAT-TUN	4	王貞治監督	10			
	5	オリエンタルラジオ	4	サッカー日本代表	9			
			レイザーラモンHG	4				
2007年	1	陣内智則	33	石川遼	58	東国原英夫	38	
	2	藤原紀香	12	斎藤佑樹	52	安倍晋三	17	
	3	タカ・アンド・トシ	7	田中将大	34	小泉純一郎	5	
	4	みのもんた	6	イチロー	29	長妻昭	4	
	5	松本人志	6	桑田真澄	24			
2008年	1	エド・はるみ	38	イチロー	25	橋下徹	20	
	2	羞恥心	14	北島康介	24	東国原英夫	12	
	3	上地雄輔	12	男子バレー日本代表	22			
	4	三谷幸喜	10	クルム伊達公子	20			
	5	水谷豊	9	ダルビッシュ有	17			
2009年	1	オードリー	18	イチロー	107	辻井伸行	22	
	2	森光子	12	石川遼	21	橋下徹	5	
	3	はんにゃ	9	田中将大	11	鳩山邦夫	4	
	4	草彅剛	7	WBC日本代表	7	舛添要一	3	
	5	島田紳助	7	太田雄貴	6			
			入江陵介	6				
2010年	1	嵐	45	石川遼	44	蓮舫	14	
	2	福山雅治	9	浅田真央	42	鳩山由紀夫	5	
	3	はるな愛	8	イチロー	40	はやぶさ(小惑星探査機)	4	
	4	ビートたけし	7	高橋大輔	21	東国原英夫	4	
	5	加藤清史郎	5	本田圭佑	20	山崎直子(宇宙飛行士)	3	
			EXILE	5				
2011年	1	AKB48	41	石川遼	73	枝野幸男	12	
	2	江頭2:50	23	長友佑都	44	東日本大震災の被災者	11	
	3	嵐	22	安藤美姫	16	菅直人	9	
	4	芦田愛菜	13	イチロー	16	孫正義	8	
	5	山本太郎	9	長谷部誠	13	福島第一原発の作業員	8	
2012年	1	AKB48	29	澤穂希	23	橋下徹	7	
	2	嵐	17	香川真司	22	野田佳彦	3	
	3	スギちゃん	14	なでしこジャパン	22	東日本大震災の被災者	3	
	4	芦田愛菜	5	ダルビッシュ有	16			
	5	大島優子(AKB48)	5	本田圭佑	14			
2013年	1	指原莉乃(HKT48)	12	本田圭佑	51	林修(東進ハイスクール)	6	
	2	嵐	9	錦織圭	21	橋下徹	5	
	3	中村昌也	8	ダルビッシュ有	10	安倍晋三	5	
	4	キンタロー。	7	浅田真央	7	DJボリス	4	
	5	AKB48	6	イチロー	7	三浦雄一郎	4	
			福山雅治	6	サッカー日本代表	7		
2014年	1	タモリ	10	浅田真央	38	ふなっしー	3	
	2	嵐	9	羽生結弦	20			
	3	有吉弘行	7	田中将大	18			
	4	坂上忍	6	本田圭佑	9			
	5	AKB48	4	イチロー	6			
			錦織圭	6				
2015年	1	嵐	8	錦織圭	101	安倍晋三	7	
	2	マツコ・デラックス	7	イチロー	20	ふなっしー	3	
	3	坂上忍	4	浅田真央	11			
	4	指原莉乃	4	羽生結弦	7			
	5	AKB48	3	中畑清	3			
			DAIGO	3	澤穂希	3		
			明石家さんま	3				
			有吉弘行	3				
			タモリ	3				

(得票数 3 件以上のみ)

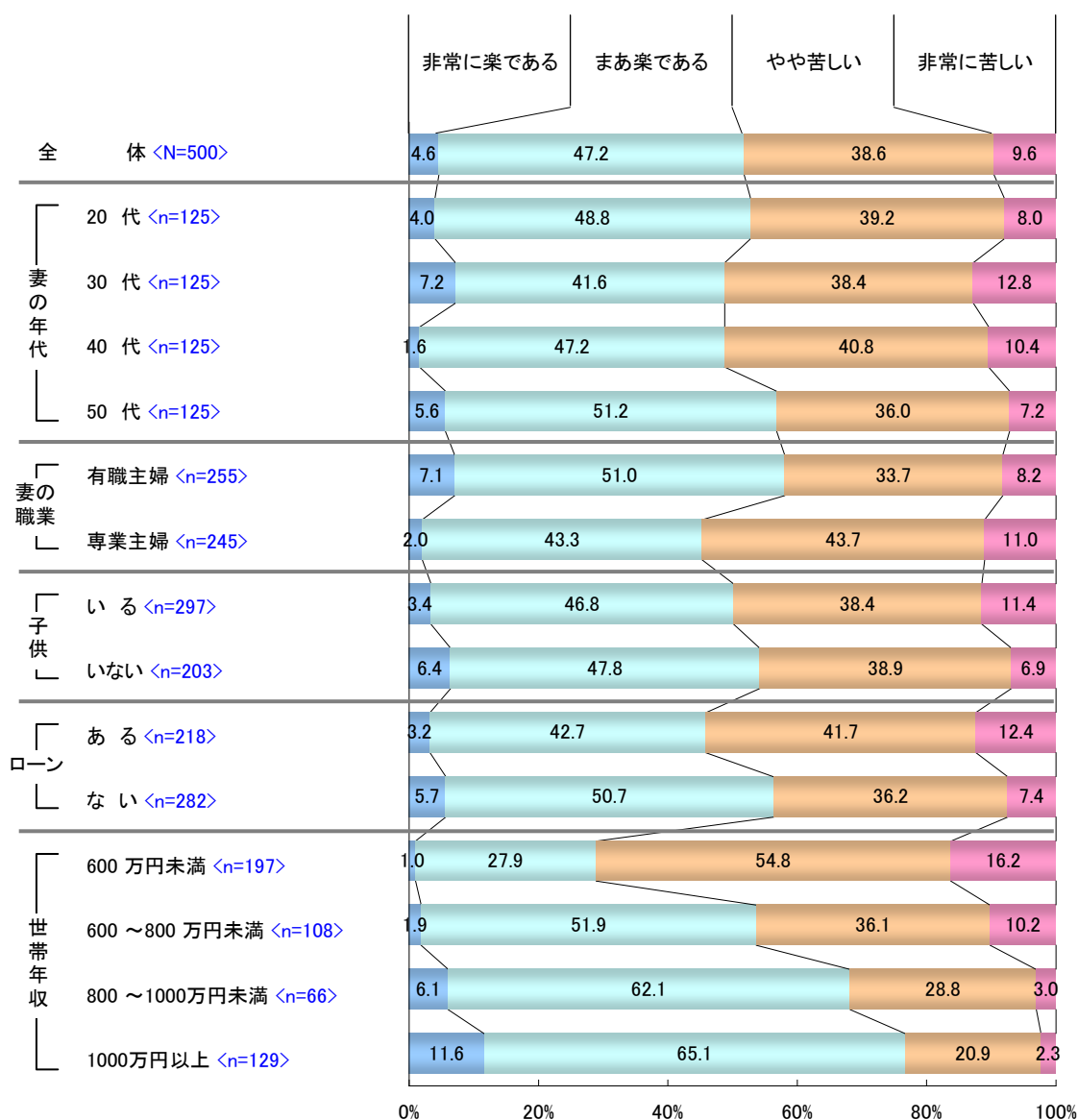
## Ⅱ わが家の家計と金融資産

### 1. 家計についての現状認識

“楽である”(51.8%)と“苦しい”(48.2%)にほぼ二分。

※“苦しい”は、「やや苦しい」「非常に苦しい」の合計、“楽である”は、「まあ楽である」「非常に楽である」の合計を表します。

図 13. 家計についての現状認識



家計をやりくりしている主婦に、現在の家計について楽か、苦しいかを聞いてみたところ、「非常に楽である」(4.6%)、「まあ楽である」(47.2%)を合わせた“楽である”が半数強(51.8%)を占めています。一方、「やや苦しい」(38.6%)、「非常に苦しい」(9.6%)を合わせた“苦しい”(48.2%)もほぼ半数で、二分された状況となっています。

- ・妻の年代別にみると、《20代》を除けば年代が上の人ほど“楽である”とする割合が高く、《30代》と《40代》は共に48.8%、《50代》が56.8%となっていますが、《20代》(52.8%)は《50代》に次ぐ率となっています。
- ・妻の職業別にみると、《有職主婦》では“苦しい”(42.0%)よりも“楽である”(58.0%)の方が多くなっていますが、《専業主婦》では逆に“苦しい”(54.7%)が“楽である”(45.3%)を上回っています。
- ・独立していない子供(扶養中の子供)の有無別にみると、《いる》人では“楽である”(50.2%)と“苦しい”(49.8%)に二分されていますが、《いない》人では“苦しい”(45.8%)より“楽である”(54.2%)の方が10ポイント近く高くなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、“苦しい”という認識は、ローンが《ある》(54.1%)という人の方が《ない》(43.6%)よりも10ポイントほど高くなっています。
- ・世帯年収別にみると、当然ながら年収が高くなるほど“楽である”の割合が高く、《600万円未満》では3割弱(28.9%)にとどまっていますが、《600～800万円未満》(53.7%)の層になると半数を超え、《800～1,000万円未満》では7割弱(68.2%)、《1,000万円以上》(76.7%)になると7割台に達しています。

#### ■昨夏の調査結果との比較■

“楽である”(49.2%→51.8%)がやや増加傾向を示しており、家計の状況は確実に改善に向かっていることがうかがえます。



## 2. 家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出

第一に「子供の教育費」(138 件)を削りたくないが、「食費」(118 件)、「旅行・レジャー費」(109 件)、「外食費」(24 件)、「娯楽・教養費(新聞・書籍など)」(20 件)なども削りたくない。

表 7. これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出

順位		件数
1	子供の教育費	138
2	食費	118
3	旅行・レジャー費	109
4	外食費	24
5	娯楽・教養費(新聞・書籍など)	20
6	美容費(エステ・化粧品など)	14
7	服飾・衣料費	13
8	趣味にかかる費用	12
	貯金	12
10	交際費	8
11	医療費	6
	健康にかかる費用(ジム、ヨガなど)	6
13	ペットにかかる費用	4

前述のように家計の現状を“苦しい”とみている主婦がほぼ半数を占めていましたが、ここでは家計の中で、これだけは削りたくない・お金をかけたいと思う支出を具体的にあげてもらいました。

最も多かったのは「子供の教育費」(138 件)で、以下「食費」(118 件)、「旅行・レジャー費」(109 件)、「外食費」(24 件)、「娯楽・教養費(新聞・書籍など)」(20 件)などが続いています。

家計が“苦しい”からといって、「子供の教育費」だけは削りたくない・お金をかけたいと考える人が多いようです。しかし、「旅行・レジャー費」といった“楽しみ”も忘れたくないようです。

### ■昨夏の調査結果との比較■

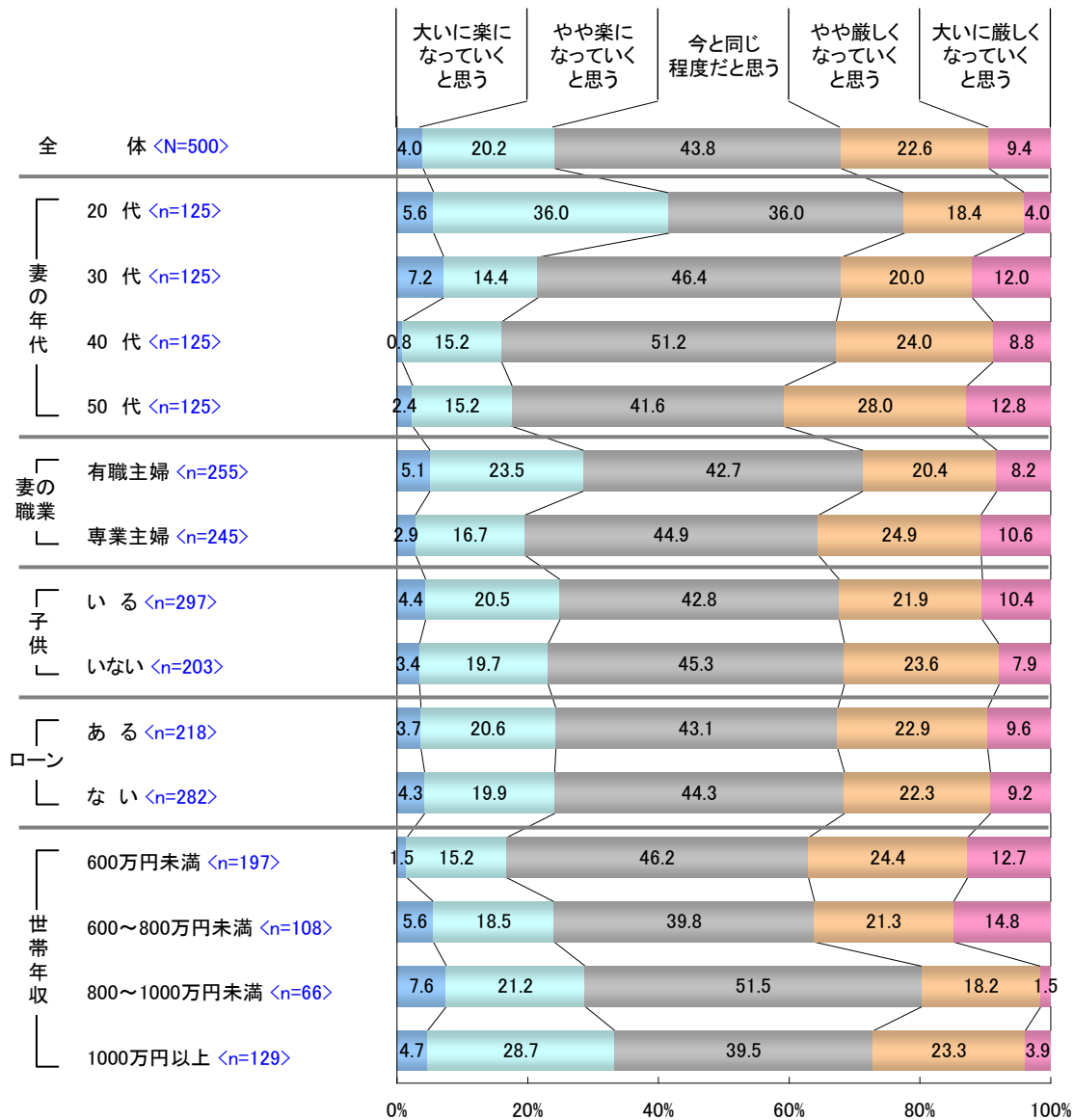
昨夏の結果と比べると、全体的な傾向にあまり変化は見えません。

### 3. 今後の家計の見通し

「今と同じ程度だと思ふ」(43.8%)が4割強を占めているが、依然“楽になっていくと思ふ”(24.2%)より“厳しくなっていくと思ふ”(32.0%)との見方が強い。

※“厳しくなっていくと思ふ”は、「やや厳しくなっていくと思ふ」「大いに厳しくなっていくと思ふ」の合計、“楽になっていくと思ふ”は、「やや楽になっていくと思ふ」「大いに楽になっていくと思ふ」の合計を表わします。

図 14. 今後の家計の見通し



今後の家計の見通しを聞いたところ、「今と同じ程度だと思ふ」という回答が4割強(43.8%)を占めていますが、そのほかでは、“楽になっていくと思ふ”と前向きにとらえている人は2割台(24.2%)にとどまり、“厳しくなっていくと思ふ”(32.0%)と考えている人の方が多くなっています。

- ・妻の年代別にみると、年代が上の人ほど“厳しくなっていくと思ふ”との見方が強く、《20代》では2割強(22.4%)、《30代》(32.0%)、《40代》(32.8%)では3割台、《50代》(40.8%)になると4割に達します。
- ・妻の職業別にみると、“厳しくなっていくと思ふ”割合は《専業主婦》(35.5%)の方が《有職主婦》(28.6%)

よりも高めです。

- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別や住宅ローンの有無別でも、あまり差はみられません。
- ・世帯年収別にみると、年収が多い世帯ほど“楽になっていくと思う”との見方が強くなっています。年収《600万円未満》や《600～800万円未満》の世帯では“厳しくなっていくと思う”（順に37.1%、36.1%）の方が“楽になっていくと思う”（順に16.8%、24.1%）を上回っていますが、《800～1000万円未満》や《1,000万円以上》の層では逆転しており“楽になっていくと思う”が3割前後を示しています。

#### ■昨夏の調査結果との比較■

依然「今と同じ程度だと思う」（46.4%→43.8%）方が多くなっていますが、“楽になっていくと思う”（18.6%→24.2%）との見方が若干増加傾向を示しています。

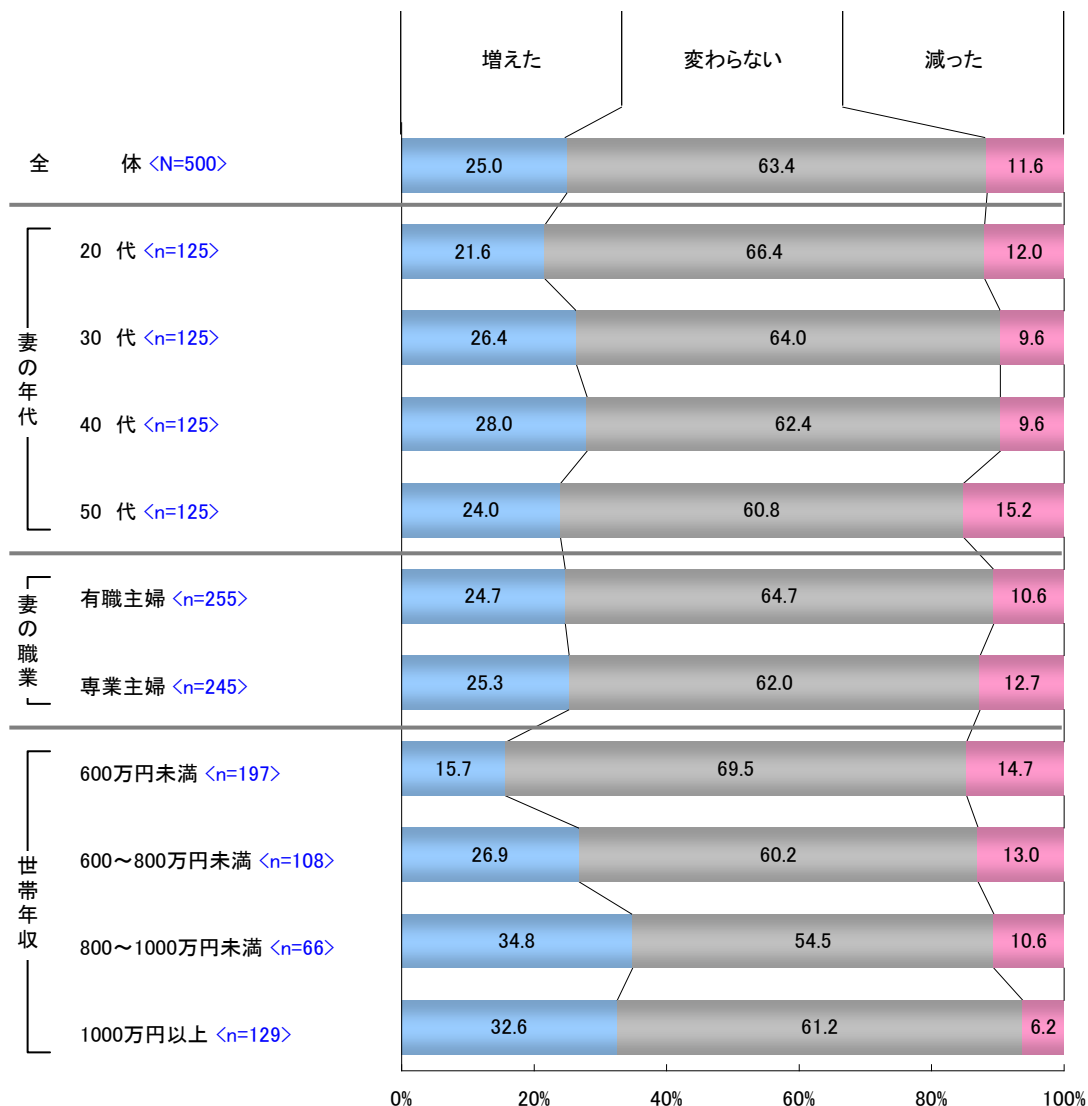
#### 4. 世帯の金融資産の増減

「変わらない」が6割強(63.4%)を占めているが、「減った」(11.6%)よりも「増えた」(25.0%)方が多い。

◆「増えた」金額は平均「143.5万円」、「減った」金額は平均「101.4万円」。

◆「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」(53件)、「節約したから」(14件)、「ボーナスを貯金したから」(9件)などの“貯金、節約”や、「株などで運用益が出たので」(21件)、「昇給などで収入が増えたから」(16件)という理由も。「減った」理由は、「子供の教育費に使ったから」(17件)、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」(8件)、「冠婚葬祭に使ったため」(5件)、「車を購入したので」(5件)といったさまざまな支出や、「収入が減ったため」(8件)。

図 15. 世帯の金融資産の増減



家庭の預貯金や運用などを合わせた『金融資産の残高』は今年1年で増えたか、減ったか聞いてみたところ、「変わらない」が6割強(63.4%)と多数を占めています。「増えた」(25.0%)と「減った」(11.6%)とでは「増えた」の方が多く、全体としては若干の増加傾向にあるようです。

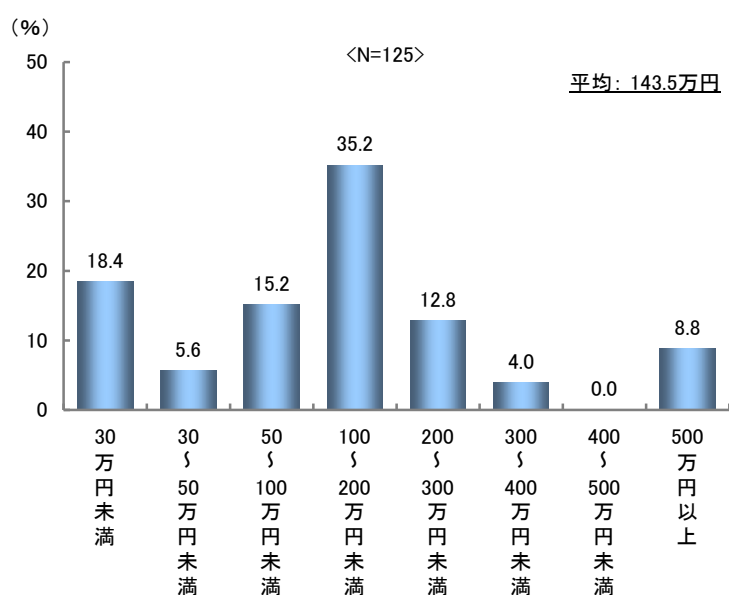
- ・妻の年代別にみると、いずれの年代でも「増えた」が2割台で「減った」よりも多くなっていますが、「減った」という割合は《20代》(12.0%)と《50代》(15.2%)でやや目立ちます。

- ・妻の職業別にみると、「増えた」割合は《有職主婦》(24.7%)と《専業主婦》(25.3%)で差はみられません。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が低い人ほど「減った」割合が高くなっています。なお、「増えた」割合は《600万円未満》で15.7%、《600～800万円未満》で26.9%ですが、《800～1000万円未満》(34.8%)、《1000万円以上》(32.6%)になると3割台に達しています。

### ■昨夏の調査結果との比較■

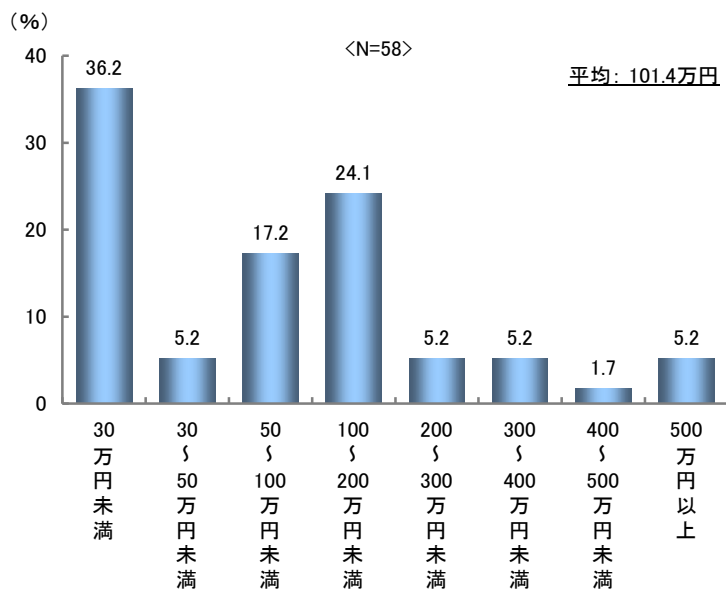
依然「変わらない」(61.0%→63.4%)が過半数を占めていますが、「増えた」(24.4%→25.0%)が横ばい、「減った」(14.6%→11.6%)が若干減っています。

図 16. 増えた額



金融資産が「増えた」と答えた人(125人)に、増えた金額を聞いてみたところ、「100～200万円未満」(35.2%)が最も多く、以下「30万円未満」(18.4%)、「50～100万円未満」(15.2%)、「200～300万円未満」(12.8%)が続いています。また、「500万円以上」(8.8%)という人も1割近くいます。平均は「143.5万円」です。

図 17. 減った額



一方、減った人（58人）の金額は、「30万円未満」（36.2%）が最も多く、以下「100～200万円未満」（24.1%）、「50～100万円未満」（17.2%）などの順で、平均は「101.4万円」です。

表 8. “金融資産の残高”の増減の理由（自由回答：件）

＜増えた理由＞			＜減った理由＞			＜変わらない理由＞		
順位	理由	件数	順位	理由	件数	順位	理由	件数
1	こつこつ貯めたから・定期預金	53	1	子供の教育費に使ったから	17	1	収支が変わらないため	45
2	株などで運用益が出たので	21	2	家を購入したので・住宅ローンに充てたので	8	2	収入が増えても支出も多かったため	35
3	昇給などで収入が増えたから	16		収入が減ったため	8	3	ローンや生活費などで貯金できなかったから	31
4	節約したから	14	4	冠婚葬祭に使ったため	5	4	特に運用などしていないから	22
5	ボーナスを貯金したから	9		車を購入したので	5	5	貯金に手をつけていないから	16
6	支出がなかったから・学費やローンなど定期支出が終わったので	8	6	医療費が増えたため	3	6	生活に変化がなかったため	11
7	保険の支払い・退職金などの臨時収入があったから	7		趣味などに使ったため	3	7	把握していない・夫がそう言っているから	4
				生活費に補填したから	3		元々資産はないから	4
						9	収入が減ったから	3

“金融資産の残高”が増減した理由を具体的に聞いてみました。

「増えた」理由は、「こつこつ貯めたから・定期預金」（53件）、「節約したから」（14件）、「ボーナスを貯金したから」（9件）など“貯金した、節約した”という理由や、「株などで運用益が出たので」（21件）、「昇給などで収入が増えたから」（16件）などの理由もあげられています。

「減った」理由は、「子供の教育費に使ったから」（17件）、「家を購入したので・住宅ローンに充てたので」（8件）、「冠婚葬祭に使ったため」（5件）、「車を購入したので」（5件）といったさまざまな支出があったことや、「収入が減ったため」（8件）などがあげられています。

「変わらない」という理由は、「収支が変わらないため」(45件)が最も多く、以下「収入が増えても支出も多かったため」(35件)、「ローンや生活費などで貯金できなかったから」(31件)、「特に運用などしていないから」(22件)、「貯金に手をつけていないから」(16件)、「生活に変化がなかったため」(11件)などとなっています。中には「把握していない・夫がそう言っているから」(4件)とあまり関心がない人もみられます。

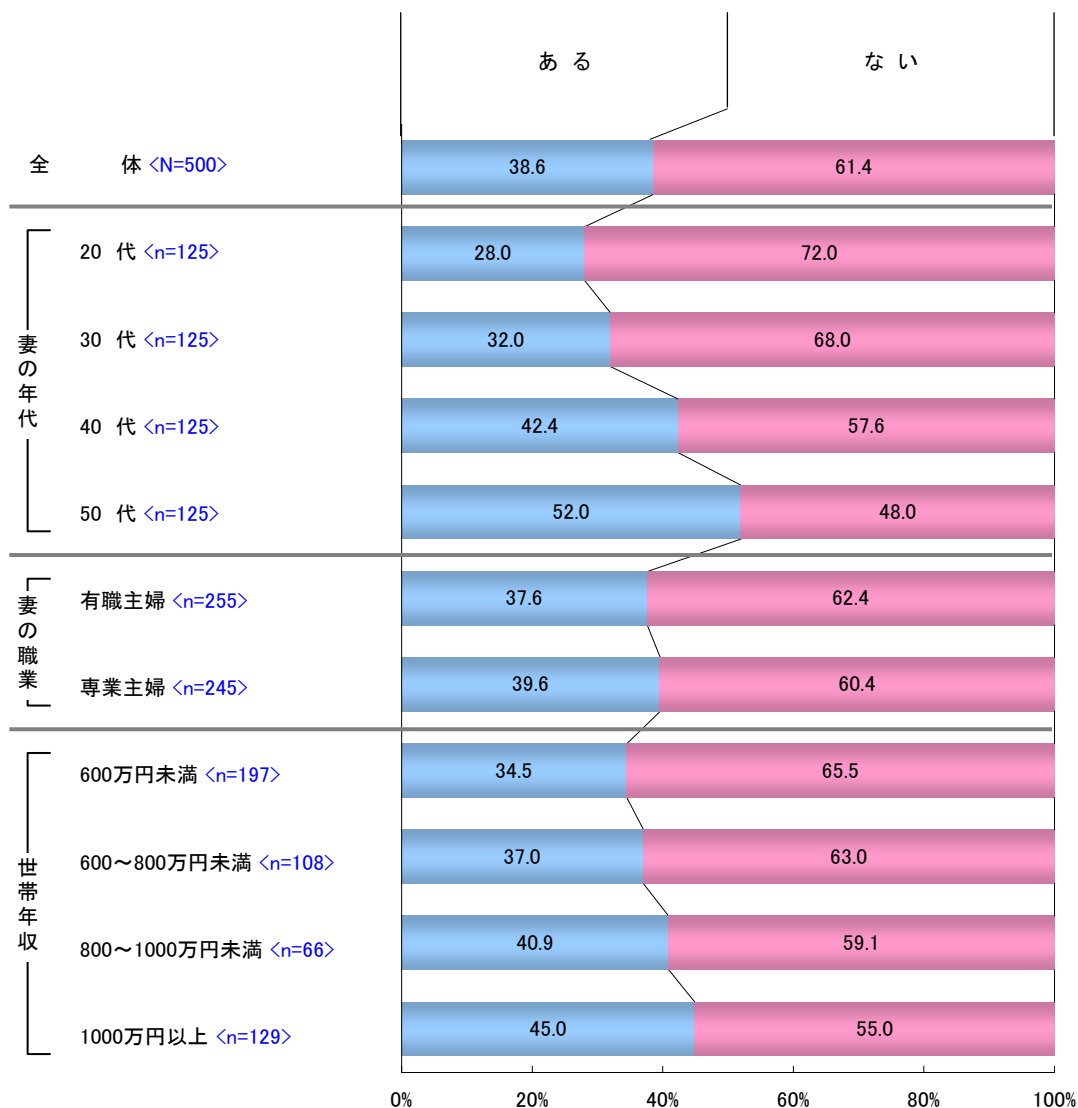
### Ⅲ 夫に内緒の資産

#### 1. 『夫に内緒の資産』の保有状況

4割弱(38.6%)が『夫に内緒の資産』を“持っている”。

※『夫に内緒の資産』とは、へそくり、結婚前働いていたときに貯めたお金、結婚後自分が働いて貯めたお金、資産運用で得たお金、実家の財産分与など“夫に話していない妻名義の資産”すべてを指します。“意図的に隠している”ものに限りません。

図 18. 『夫に内緒の資産』の保有状況



サラリーマン世帯の主婦は、『夫に内緒の資産』をどのくらいの割合の人が持っているのでしょうか。『夫に内緒の資産』があるかについて聞いてみたところ、4割弱(38.6%)が「ある」と回答しています。



- ・妻の年代別にみると、「ある」割合、すなわち保有率は年代が上の人ほど高い傾向がみられ、最も高い《50代》(52.0%)では半数を超え、最も低い《20代》(28.0%)より20ポイント以上も高い割合です。
- ・妻の職業別ではほとんど差はありません。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が多くなるほど保有率も高い傾向がみられ、保有率は《600万円未満》(34.5%)、《600～800万円未満》(37.0%)では3割台ですが、《800～1000万円未満》(40.9%)、《1000万円以上》(45.0%)では4割台を示しています。

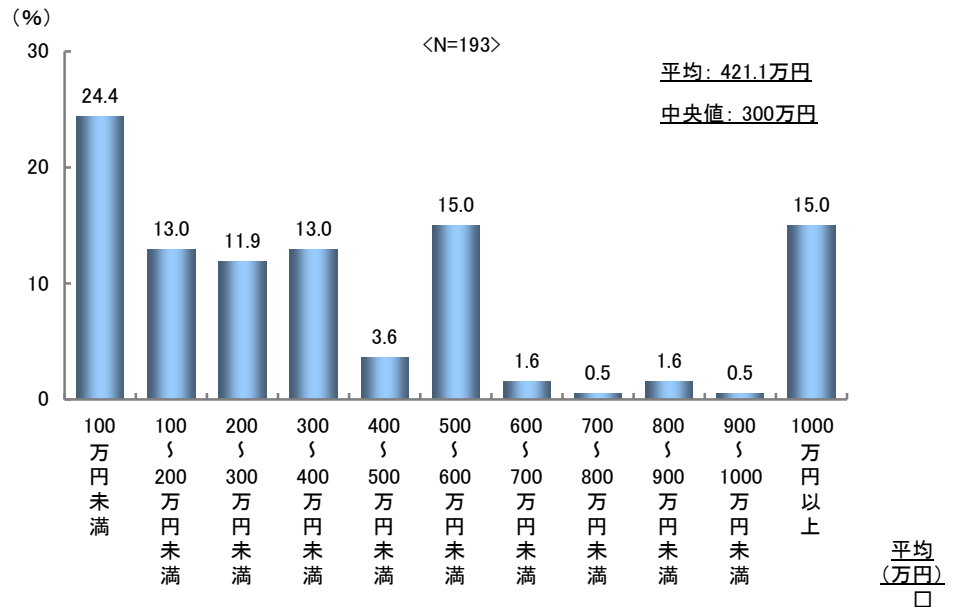
#### ■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、『夫に内緒の資産』を持っている人の割合は、40.4%→38.6%とやや減っていますが、あまり大きな変化ではありません。

## 2. 『夫に内緒の資産』の保有額

内緒の資産を持っている人の保有額は、「100 万円未満」(24.4%)が最も多いが、「1000 万円以上」(15.0%)も少なくなく、人による差が大きい。平均額は「421.1 万円」で昨夏(452.4 万円)より 30 万円以上ダウン。

図 19. 『夫に内緒の資産』の保有額



妻の年代	妻の職業	世帯年収	保有額 (万円)										平均 (万円)	
			100万円未満	100万円～200万円未満	200万円～300万円未満	300万円～400万円未満	400万円～500万円未満	500万円～600万円未満	600万円～700万円未満	700万円～800万円未満	800万円～900万円未満	900万円～1000万円未満		1000万円以上
妻の年代	20代 <n=35>		48.6	17.1	11.4	14.3	2.9	-	-	-	-	2.9	2.9	165.3
	30代 <n=40>		22.5	7.5	10.0	22.5	-	15.0	5.0	2.5	-	-	15.0	462.6
	40代 <n=53>		17.0	15.1	15.1	13.2	7.5	13.2	1.9	-	5.7	-	11.3	396.1
	50代 <n=65>		18.5	12.3	10.8	6.2	3.1	24.6	-	-	-	-	24.6	557.0
妻の職業	有職主婦 <n=96>		22.9	13.5	8.3	9.4	4.2	15.6	2.1	-	2.1	1.0	20.8	482.6
	専業主婦 <n=97>		25.8	12.4	15.5	16.5	3.1	14.4	1.0	1.0	1.0	-	9.3	362.7
世帯年収	600万円未満 <n=68>		33.8	20.6	8.8	17.6	5.9	7.4	1.5	1.5	-	-	2.9	231.0
	600～800万円未満 <n=40>		30.0	10.0	12.5	15.0	5.0	10.0	2.5	-	2.5	-	12.5	352.3
	800～1000万円未満 <n=27>		11.1	11.1	14.8	11.1	-	25.9	3.7	-	3.7	3.7	14.8	627.4
	1000万円以上 <n=58>		15.5	6.9	13.8	6.9	1.7	22.4	-	-	1.7	-	31.0	608.3

次に、『夫に内緒の資産』を持っている人(193名)にその金額を聞いてみたところ、「100万円未満」(24.4%)が最も多くなっていますが、「1000万円以上」(15.0%)という人も少なくなく、非常にバラつきの多い結果となっています。中には「2億円」「1億円」といった高額の資産を持っている人もいますが、そういった例外的な金額(5千万円以上)の人を除けば、平均は「421.1万円」となっています。

- ・妻の年代別に資産額の平均をみると、年代が上の人ほど多くなる傾向が強くみられ、「1000万円以上」は《20代》(2.9%)ではほとんどいませんが、《50代》(24.6%)ではほぼ4人に1人の割合に達しています。平均も《50代》(557.0万円)では《20代》(165.3万円)の3倍以上の金額となっています。
- ・妻の職業別にみると、《有職主婦》(平均482.6万円)の方が《専業主婦》(362.7万円)よりも約120万円も高く、やはり仕事を持っている主婦の方が多く『夫に内緒の資産』を持っています。
- ・世帯年収別にみると、やはり年収が多いほど内緒の資産は多く、《800～1000万円未満》(627.4万円)、《1000万円以上》(608.3万円)の層では600万円台に達しています。

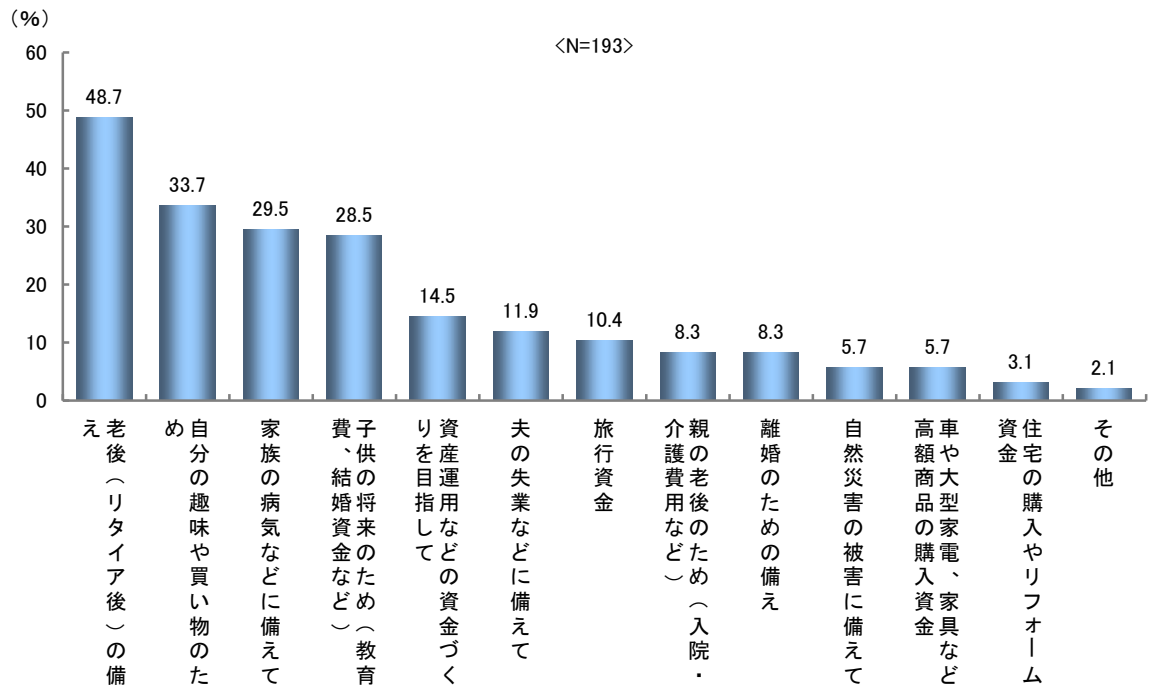
## ■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、「100万円未満」(18.8%→24.4%)がかなり増え、一方「1000万円以上」(19.8%→15.0%)は減っており、保有額は全体に減っています。平均金額も452.4万円→421.1万円と、30万円以上(31.3万円)ダウンしています。

### 3. 『夫に内緒の資産』を持つ目的

「老後(リタイア後)の備え」(48.7%)、「自分の趣味や買い物のため」(33.7%)、「家族の病気などに備えて」(29.5%)、「子供の将来のため(教育費、結婚資金など)」(28.5%)などの順で、自分のために使うのもさることながら、“将来の備え”のためという動機が大きい。

図 20. 『夫に内緒の資産』を持つ目的(複数回答)



妻の年代	20代 <n=35>	30代 <n=40>	40代 <n=53>	50代 <n=65>	老後(リタイア後)の備え	自分の趣味や買い物のため	家族の病気などに備えて	子供の将来のため(教育費、結婚資金など)	資産運用などの資金づくりを目指して	夫の失業などに備えて	旅行資金	親の老後のため(入院・介護費用など)	離婚のための備え	自然災害の被害に備えて	高額商品の購入資金	車や大型家電、家具など	住宅の購入やリフォーム資金	その他	
20代 <n=35>	31.4	45.7	25.7	40.0	14.3	17.1	8.6	2.9	11.4	5.7	5.7	8.6	-	-	-	-	-	-	-
30代 <n=40>	55.0	37.5	27.5	27.5	17.5	17.5	7.5	12.5	10.0	10.0	10.0	5.0	-	-	-	-	-	-	-
40代 <n=53>	56.6	26.4	34.0	32.1	13.2	11.3	9.4	9.4	5.7	3.8	1.9	-	3.8	-	-	-	-	-	-
50代 <n=65>	47.7	30.8	29.2	20.0	13.8	6.2	13.8	7.7	7.7	4.6	6.2	1.5	3.1	-	-	-	-	-	-

『夫に内緒の資産』をどのようなことに使うために持っているのかを聞いてみたところ、「老後(リタイア後)の備え」(48.7%)が抜きん出て多く、以下「自分の趣味や買い物のため」(33.7%)、「家族の病気などに備えて」(29.5%)、「子供の将来のため(教育費、結婚資金など)」(28.5%)、「資産運用などの資金づくりを目指して」(14.5%)、「夫の失業などに備えて」(11.9%)、「旅行資金」(10.4%)などの順となっています。

自分のために使うのもさることながら、“将来の備え”のために『夫に内緒の資産』を持っている主婦が多いことがうかがえます。

- ・妻の年代別にみると、《20代》では「老後(リタイア後)の備え」(31.4%)が少なく、「自分の趣味や買い物のため」(45.7%)、「子供の将来のため(教育費、結婚資金など)」(40.0%)などが多くっており、他の年代と比べて特徴的です。

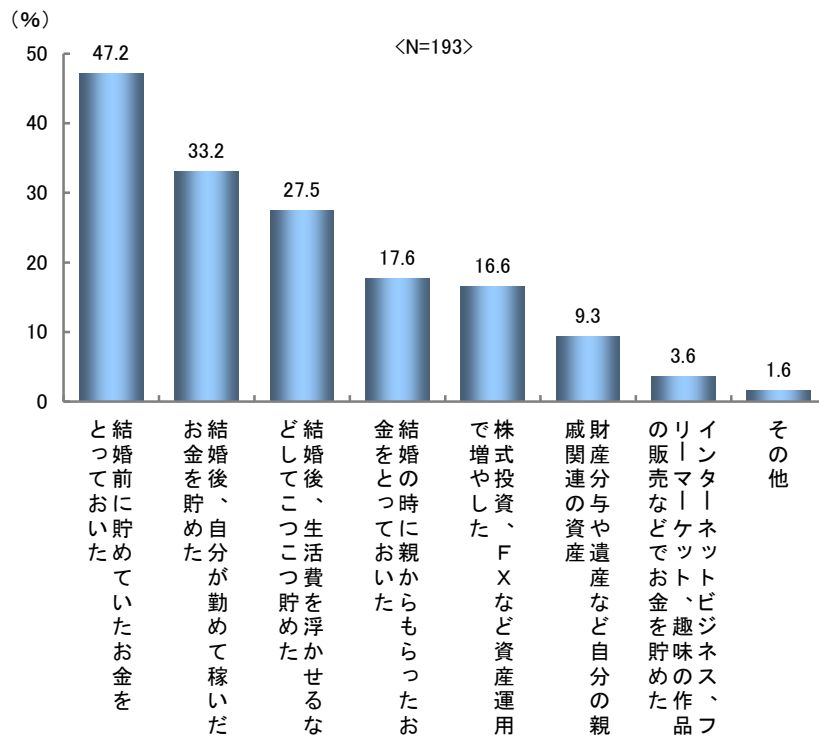
#### ■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べても、あまり大きな変化はみられません。

#### 4. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか

「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(47.2%)、「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(33.2%)と“自分で働いて貯めた”お金が主。以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(27.5%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(17.6%)、「株式投資、FXなど資産運用で増やした」(16.6%)、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(9.3%)など。

図 21. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答）



『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものでしょうか。

「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(47.2%)が最も多く、次いで「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」(33.2%)があげられており、“自分で働いて貯めた”お金が内緒の資産の原資になっている人が多いようです。以下、「結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた」(27.5%)、「結婚の時に親からもらったお金をとっておいた」(17.6%)、「株式投資、FXなど資産運用で増やした」(16.6%)、「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」(9.3%)などとなっています。

表 9. 『夫に内緒の資産』はどのようにして得たものか（複数回答：内緒の資産額別）

(%)

	サンプル数	結婚前に貯めていたお金を	結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた	結婚後、生活費を浮かせるなどしてこつこつ貯めた	結婚の時に親からもらったお金をとっておいた	株式投資、FXなどで増やした	財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産	インターネットビジネス、フリーマーケットなどでお金を貯めた	その他	
全 体	193	47.2	33.2	27.5	17.6	16.6	9.3	3.6	1.6	
内 緒 の 資 産	100万円未満	47	23.4	21.3	46.8	12.8	8.5	2.1	2.1	6.4
	100～200万円未満	25	40.0	32.0	16.0	12.0	8.0	8.0	-	-
	200～300万円未満	23	69.6	17.4	21.7	8.7	-	13.0	4.3	-
	300～500万円未満	32	65.6	37.5	28.1	21.9	9.4	9.4	12.5	-
	500～1000万円未満	37	56.8	51.4	13.5	21.6	24.3	13.5	2.7	-
	1000万円以上	29	41.4	37.9	27.6	27.6	48.3	13.8	-	-

内緒の資産額別の傾向をみると、内緒の資産が多いほど「株式投資、FXなど資産運用で増やした」の割合は高く、特に《1000万円以上》(48.3%)の人では半数近くに達しています。

なお、前述した高額資産者の理由をみると、

- ・ 2億円-----「結婚後、自分が勤めて稼いだお金を貯めた」「株式投資、FXなど資産運用で増やした」「財産分与や遺産など自分の親戚関連の資産」
- ・ 1億円-----「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」

となっています。

#### ■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べても大きな変化はありませんが、「結婚前に貯めていたお金をとっておいた」(54.0% →47.2%)がやや減っています。

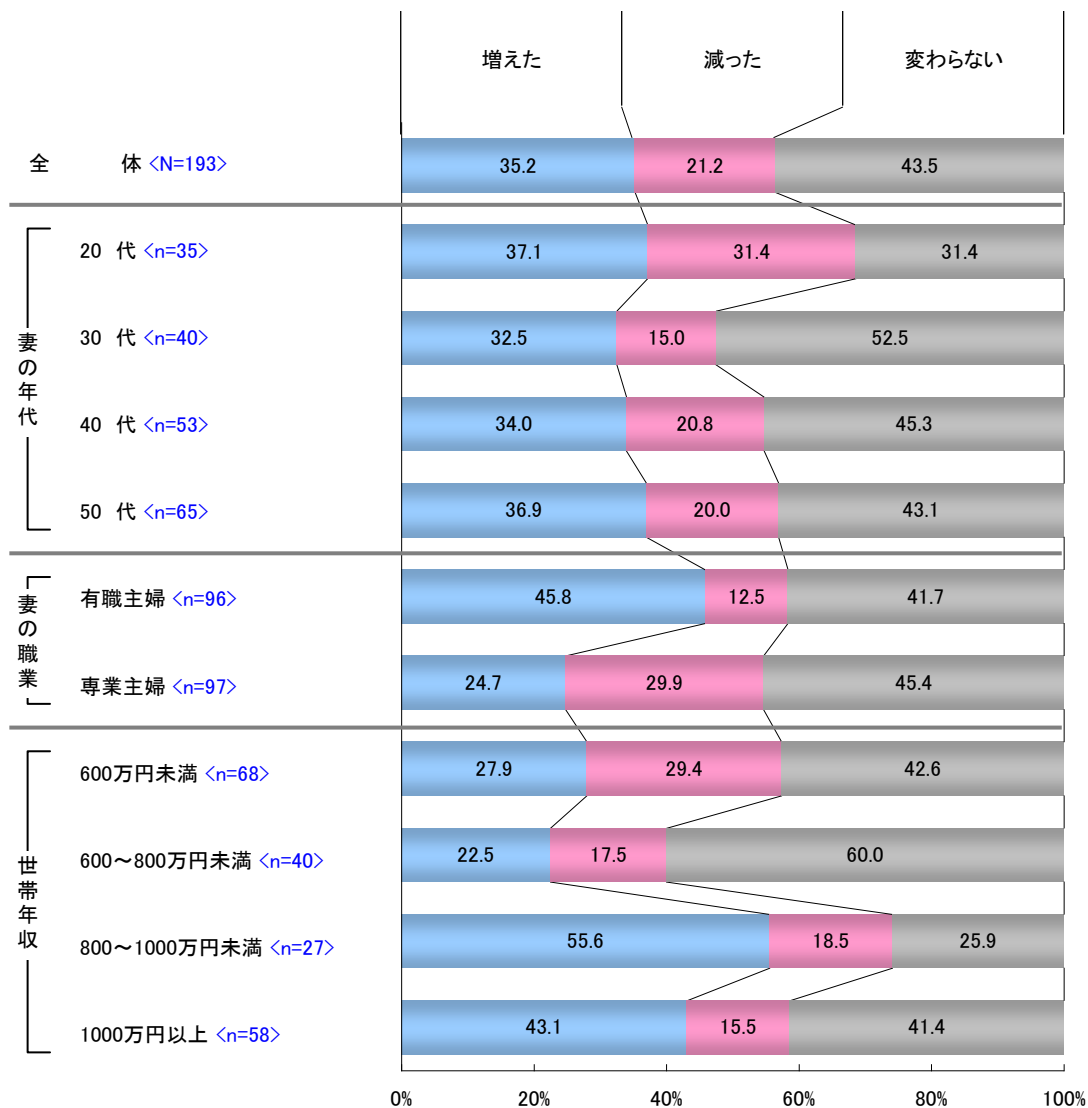
## 5. 『夫に内緒の資産』の増減

今年に入ってから“夫に内緒の資産”の増減は、4割強は「変わらない」(43.5%)が、「増えた」(35.2%)が「減った」(21.2%)を大きく上回る。

◆**増えた理由**は、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(33.8%)と意図的に増やしたケースや、「自分の収入や夫の収入が増えた」(30.9%)と自然と増えたケースが多い。

◆**減った理由**は、「家計の赤字の穴うめに使った」(41.5%)、「収入が減り、へそくりできなくなった」(29.3%)、「臨時出費があった」(17.1%)など、やむを得ない理由で減った人がほとんど。

図 22. 『夫に内緒の資産』の増減



今年に入ってから『夫に内緒の資産』の増減を聞いてみたところ、「変わらない」が4割強(43.5%)を占めていますが、「増えた」(35.2%)人の方が「減った」(21.2%)人よりも10ポイント以上高い割合で、増加傾向がやや強くなっています。

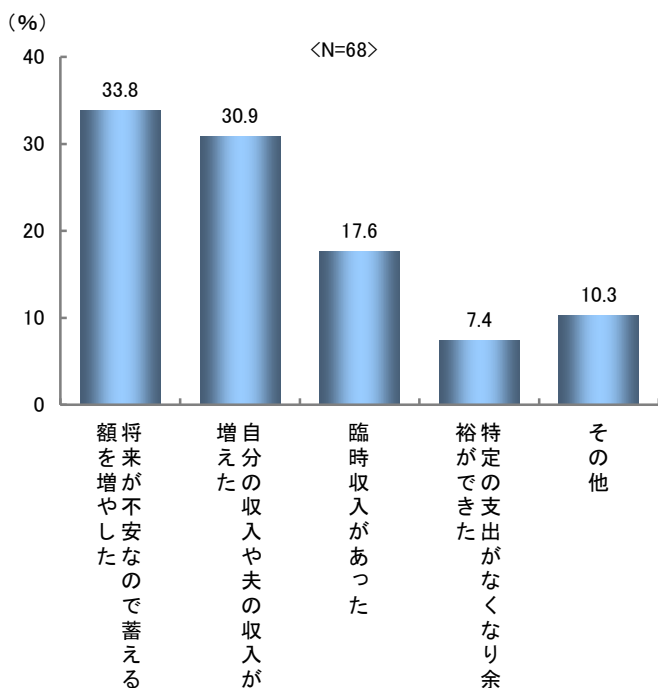
- ・妻の年代別にみると、「20代」では「増えた」(37.1%)と「減った」(31.4%)がともに3割台で、30代以上の年代では、いずれも「減った」の割合が15~20%程度と低くなっています。

- ・妻の職業別にみると、《有職主婦》では「増えた」(45.8%)の方が「減った」(12.5%)よりもはるかに多くなっていますが、《専業主婦》では逆に「増えた」(24.7%)よりも「減った」(29.9%)の方が多くなっています。やはり働いている人の方が『夫に内緒の資産』を増やしやすようです。
- ・世帯年収別にみると、年収が多い人ほど「増えた」割合が高く、《600万円未満》(27.9%)、《600～800万円未満》(22.5%)の2割台に比べ、《800～1000万円未満》(55.6%)、《1000万円以上》(43.1%)では5割前後に達しています。

### ■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べると、前回も「増えた」が「減った」を上回っていましたが、「増えた」(28.2%→35.2%)がやや増え、「減った」(23.8%→21.2%)がやや減った結果、両者の差が広がっています。

図 23. 『夫に内緒の資産』が増えた最も大きな理由



増えた人(68名)の理由をみると、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(33.8%)と意図的に増やしたケースや、「自分の収入や夫の収入が増えた」(30.9%)と自然と増えたケースが多くなっています。

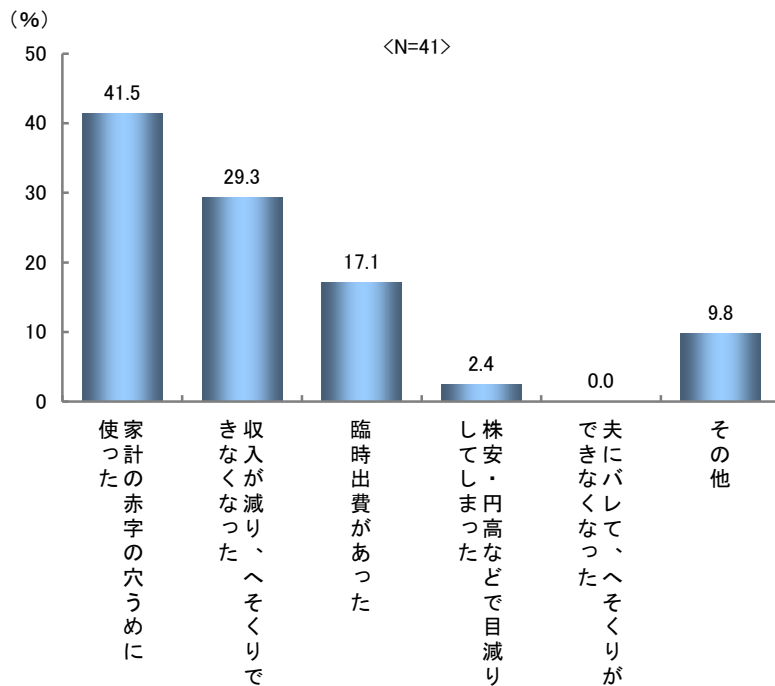
また、「臨時収入があった」(17.6%=12名)という人の内訳としては、“株の配当や売却”(5件)、“親からもらった”(4件)、“遺産”(2件)、“出産祝い”(1件)となっています。

### ■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果との比較をみると、「臨時収入があった」(10.5%→17.6%)がやや増え、「将来が不安なので蓄える額を増やした」(42.1%→33.8%)がやや減っています。



図 24. 『夫に内緒の資産』が減った最も大きな理由



一方、減った人（41名）の理由は、「家計の赤字の穴うめに使った」（41.5%）が突出して多く、以下「収入が減り、へそくりできなくなった」（29.3%）、「臨時出費があった」（17.1%）など、やむを得ない理由で減った人がほとんどとなっています。

なお、「臨時出費があった」（17.1%＝7名）の具体的な内容としては、“住居購入” “車購入” “子供の教習所代” “美容器具購入” “自分関係の冠婚葬祭” “旅行の小遣い” “結婚式費用” があげられています。

#### ■昨夏の調査結果との比較■

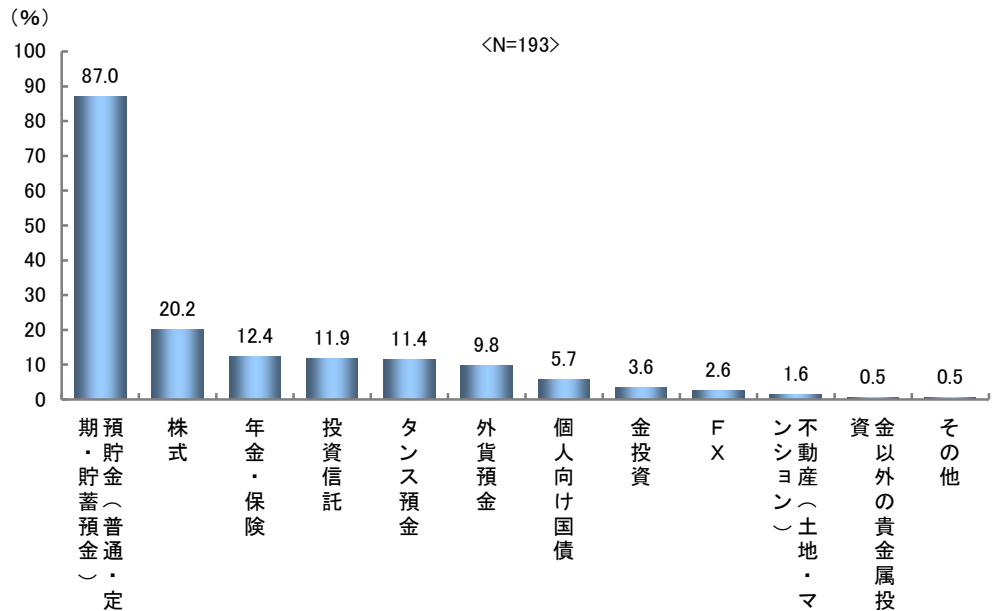
昨夏の調査結果と比べ、「収入が減り、へそくりできなくなった」（16.7%→29.3%）が 10 ポイント以上増えているのが目立ちます。

## 6. 『夫に内緒の資産』の保有形態について

『夫に内緒の資産』は、現在「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（87.0%）で保有している人が圧倒的。

●今後も、やはり「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（77.2%）で保有したい。

図 25. 『夫に内緒の資産』はどのような形で保有しているか（複数回答）



妻の年代	20代 <n=35>	30代 <n=40>	40代 <n=53>	50代 <n=65>
20代 <n=35>	91.4	11.4	5.7	5.7
30代 <n=40>	77.5	15.0	7.5	10.0
40代 <n=53>	88.7	22.6	15.1	7.5
50代 <n=65>	89.2	26.2	16.9	20.0
内緒の資産	100万円未満 <n=47>	78.7	4.3	-
100～200万円未満 <n=25>	96.0	4.0	8.0	4.0
200～300万円未満 <n=23>	95.7	21.7	8.7	8.7
300～500万円未満 <n=32>	90.6	18.8	9.4	9.4
500～1000万円未満 <n=37>	83.8	27.0	24.3	18.9
1000万円以上 <n=29>	86.2	51.7	27.6	34.5

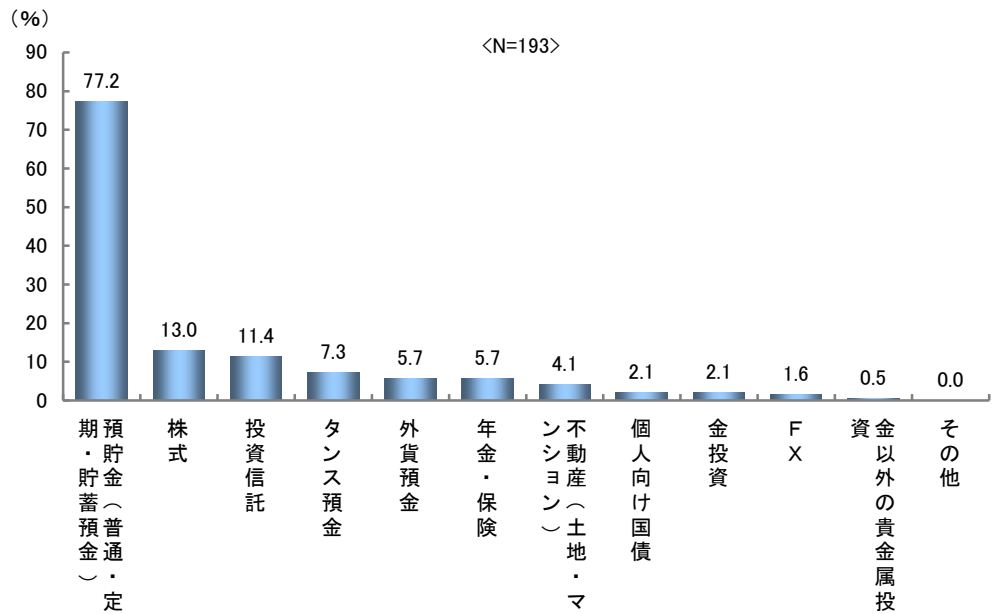
現在、『夫に内緒の資産』はどのような形で保有しているか、すなわち“へそくりの隠し場所”を聞いてみたところ、「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（87.0%）が圧倒的に多くなっています。そのほかでは、「株式」（20.2%）、「年金・保険」（12.4%）、「投資信託」（11.9%）、「外貨預金」（9.8%）といった金融商品のほか、伝統的な保有形式とも言えそうな、「タンス預金」（11.4%）という人も1割程度います。

- ・妻の年代別にみても、いずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっていますが、年代が上の人ほど「株式」「年金・保険」「投資信託」などの割合が高い傾向が強くみられます。逆に、「タンス預金」は若い人ほど高い割合です。
- ・夫に内緒の資産額別にみると、いずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多い点に変わりはありませんが、内緒の資産額が多いほど「株式」「投資信託」などが多くなっています。特に「株式」は《1,000万円以上》（51.7%）では半数を超えています。

■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べ、「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（87.1%→87.0%）をはじめ、前回とほとんど結果は変わっていません。

図 26. 今後、『夫に内緒の資産』はどのような形で保有したいか（回答は2つまで）



妻の年代	20代 <n=35>	30代 <n=40>	40代 <n=53>	50代 <n=65>		
20代 <n=35>	77.1	5.7	11.4	5.7		
30代 <n=40>	62.5	25.0	15.0	7.5		
40代 <n=53>	84.9	9.4	3.8	7.5		
50代 <n=65>	80.0	12.3	15.4	7.7		
内緒の資産	100万円未満 <n=47>	100~200万円未満 <n=25>	200~300万円未満 <n=23>	300~500万円未満 <n=32>	500~1000万円未満 <n=37>	1000万円以上 <n=29>
100万円未満 <n=47>	76.6	6.4	2.1	17.0	-	-
100~200万円未満 <n=25>	88.0	-	12.0	-	8.0	8.0
200~300万円未満 <n=23>	78.3	21.7	13.0	13.0	-	-
300~500万円未満 <n=32>	81.3	18.8	9.4	6.3	9.4	3.1
500~1000万円未満 <n=37>	81.1	16.2	10.8	2.7	5.4	10.8
1000万円以上 <n=29>	58.6	17.2	27.6	-	13.8	13.8

次に、今後は『夫に内緒の資産』をどのような形で保有したいか聞いてみたところ、現在と同様「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」（77.2%）が圧倒的に多くなっています。そのほかでは「株式」（13.0%）、「投資信託」（11.4%）、「タンス預金」（7.3%）などがあげられています。

- ・妻の年代別にみても、いずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっていますが、《30代》（62.5%）では6割程度で、他の年代の8割前後に比べて低い割合にとどまっています。
- ・夫に内緒の資産額別にみても、やはりいずれも「預貯金（普通・定期・貯蓄預金）」が圧倒的に多くなっていますが、「株式」「投資信託」などは内緒の資産が多い人ほど多い傾向がややみられます。
- ・なお、現在の保有形態別にみると、現在「預貯金」で保有している168名のうち、今後も「預貯金」という人が9割近く（86.9%）みられます。やはり“安心・安全”にへそくりを保有する方法は預貯金が第一と考えている人が多いようです。そのほか、現在「投資信託」（23名中56.5%）、「株式」（39名中46.2%）、「タンス預

金」(22名中45.5%)で保有している人の半数前後の人が、同様の形で今後も保有したいと考えているようです。

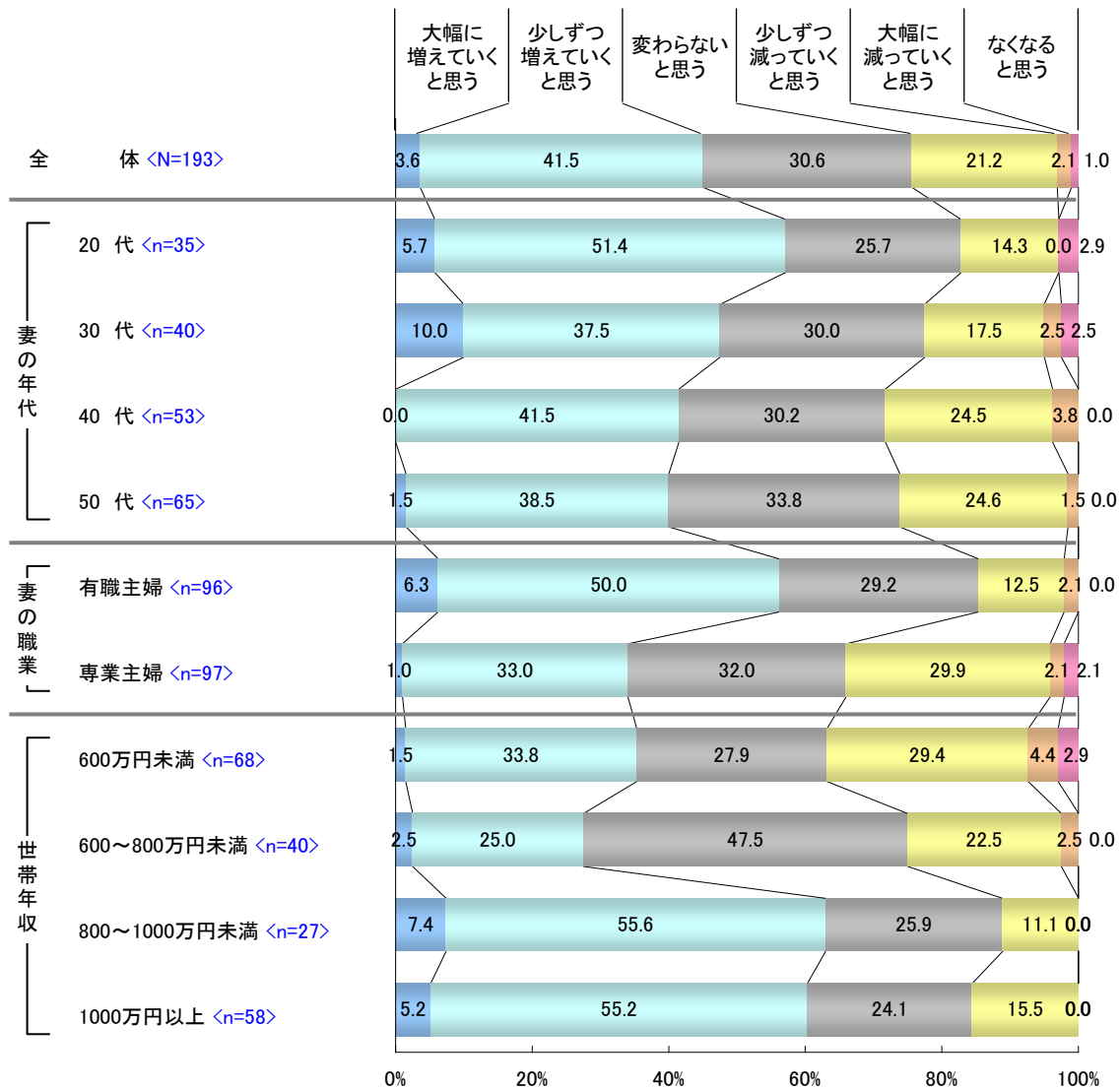
#### ■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果と比べても、大きな動きはみられません。

## 7. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し

『夫に内緒の資産』の今後の見通しは、4割台が“増えていく”(45.1%)とみており、“減っていく+なくなる”の2割台(24.4%)を大きく上回る。

図 27. 『夫に内緒の資産』の今後の見通し



『夫に内緒の資産』を保有している人に、今後の資産増減の見通しについて聞いてみたところ、「大幅に増えていくと思う」(3.6%)、「少しずつ増えていくと思う」(41.5%)など“増えていくと思う”(45.1%)という人が4割台を占め、「少しずつ減っていくと思う」(21.2%)、「大幅に減っていくと思う」(2.1%)、「なくなると思う」(1.0%)など“減っていく+なくなると思う”(24.4%)という人は2割台にとどまっています。

これまでにみてきた結果と合わせて考察してみると、家計は“楽である”(51.8%)と“苦しい”(48.2%)がほぼ同率、今後の家計の見通しは“楽になっていく”(24.2%)より“厳しくなっていく”(32.0%)との見方の方がやや強いという結果でしたが、『夫に内緒の資産』はむしろ楽観的にみている人が多くなっています。厳しい家計状況だからこそ、『夫に内緒の資産』を充実していこうという意識が強いのかも知れません。

- ・妻の年代別にみると、“増えていくと思う”割合は若い人ほど高くなっており、「20代」(57.1%)では「50代」(40.0%)より15ポイント以上も高い割合を示しています。

- ・妻の職業別にみると、“増えていくと思う”割合は《専業主婦》(34.0%)では3割台なのに対し、《有職主婦》(56.3%)では半数を超えており、自分が働いていることは『夫に内緒の資産』を増やす上で大きなメリットとなっているようです。
- ・世帯年収別にみると、“増えていくと思う”割合は《600万円未満》(35.3%)、《600～800万円未満》(27.5%)の低い年収の人で低く、《800～1000万円未満》(63.0%)、《1000万円以上》(60.3%)の人との差が非常に大きなものとなっています。

### ■昨夏の調査結果との比較■

昨夏の調査結果との比較をみると、“増えていくと思う”(43.1%→45.1%)、「変わらないと思う」(33.2%→30.6%)、“減っていく+なくなると思う”(23.8%→24.4%)のいずれも変化はわずかです。

表 10. 『夫に内緒の資産』の見通しの理由(自由回答:件)

＜増えていくと思う理由＞			＜減っていくと思う理由＞			＜変わらないと思う理由＞		
順位		件数	順位		件数	順位		件数
1	株・投資など運用しているから	23	1	使う機会が増えているから	16	1	増やす気がないから・手を付けなかつもりだから	17
2	継続して貯めているため	14	2	自分が仕事を辞めたから・働いていないから	6	2	収入の増減の予定がないため	11
3	働き始めたから・まだ働くつもりだから	10		生活費に充てているため	6	3	増やす余裕がないから	9
4	増やしたいという気持ちがあるから	9	4	夫の定年退職が近いから	5	4	貯めた分だけ使っているから	5
5	収入が増えたから	8	5	子供の教育費などに回すから	4			
6	ローンが終わるから・支出が減るから	7						
7	生活費などを節約しているから	5						

『夫に内緒の資産』の見通しについて、その理由を具体的に聞いてみました。

“増えていくと思う”と答えた人の理由は、「株・投資など運用しているから」(23件)が最も多く、以下「継続して貯めているため」(14件)、「働き始めたから・まだ働くつもりだから」(10件)、「増やしたいという気持ちがあるから」(9件)、「収入が増えたから」(8件)などの順となっています。

“減っていくと思う”理由としては、「使う機会が増えているから」(16件)、「自分が仕事を辞めたから・働いていないから」(6件)、「生活費に充てているため」(6件)、「夫の定年退職が近いから」(5件)などがあげられています。

“変わらないと思う”理由は、「増やす気がないから・手を付けなかつもりだから」(17件)、「収入の増減の予定がないため」(11件)、「増やす余裕がないから」(9件)、「貯めた分だけ使っているから」(5件)などの順です。

## IV 主婦の健康と美容への投資に対する意識と実態

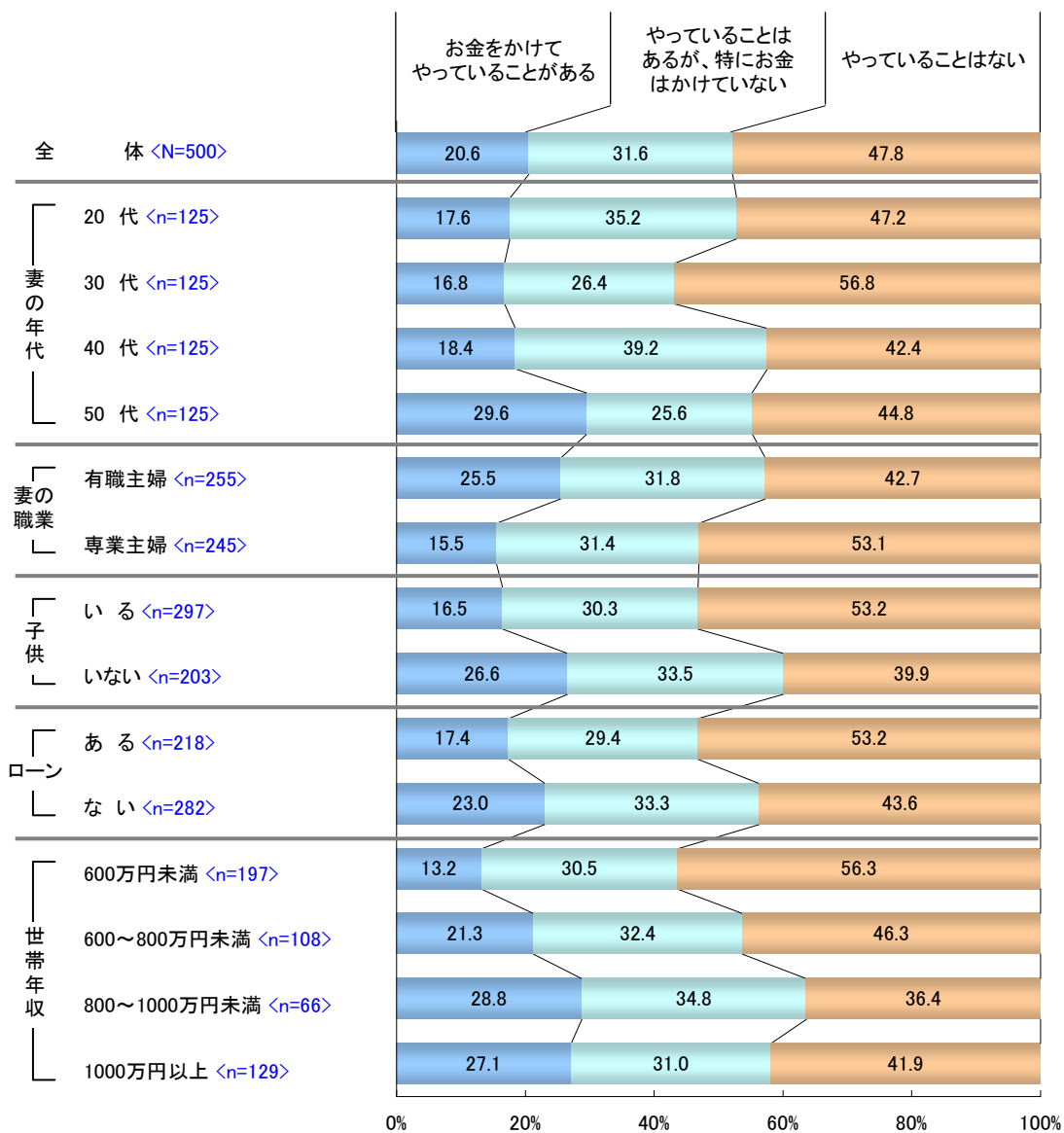
### 1. 健康維持や美容のための投資として、お金をかけてやっていることがあるか

「お金をかけてやっていることがある」人は2割(20.6%)。

◆具体的に行っていることは、「エステに通っている」(23件)、「サプリメントや健康補助食品を摂取している」(22件)、「フィットネスクラブ・ジム等に通っている」(18件)、「ヨガに通っている」(12件)など。

◆1か月にかかる金額は、「5千～1万円未満」(24.3%)、「1～2万円未満」(20.4%)の“1万円前後”が多いが、「10万円以上」(8.7%)もかけている人も少なくない。平均は月に「31,465円」。

図 28. 健康維持や美容のための投資として、お金をかけてやっていることがあるか



健康維持や美容のための投資として、お金をかけてやっていることはあるでしょうか。「お金をかけてやっていることがある」という人は2割(20.6%)で、「やっていることはあるが、特にお金はかけていない」(31.6%)、「やっていることはない」(47.8%)と、“お金をかけていない”人の方が大多数を占めています。

- ・妻の年代別にみると、「お金をかけてやっていることがある」の割合は、《20代》～《40代》までの1割台に比べ、《50代》(29.6%)ではほぼ3割に達しています。
- ・妻の職業別にみると、「お金をかけてやっていることがある」割合は《専業主婦》(15.5%)よりも《有職主婦》(25.5%)の方が10ポイント高く、自分が働いていることでお金もかけやすいものと思われます。
- ・また、独立していない子供(扶養中の子供)の有無別では《いる》(16.5%)人よりも《いない》(26.6%)人の方が、住宅ローンの有無別では《ある》(17.4%)人よりも《ない》(23.0%)人の方が、そして世帯年収別では年収の多い人ほど、それぞれ「お金をかけてやっていることがある」とする割合は高く、お金の余裕があるかどうかで大きな差が生じています。

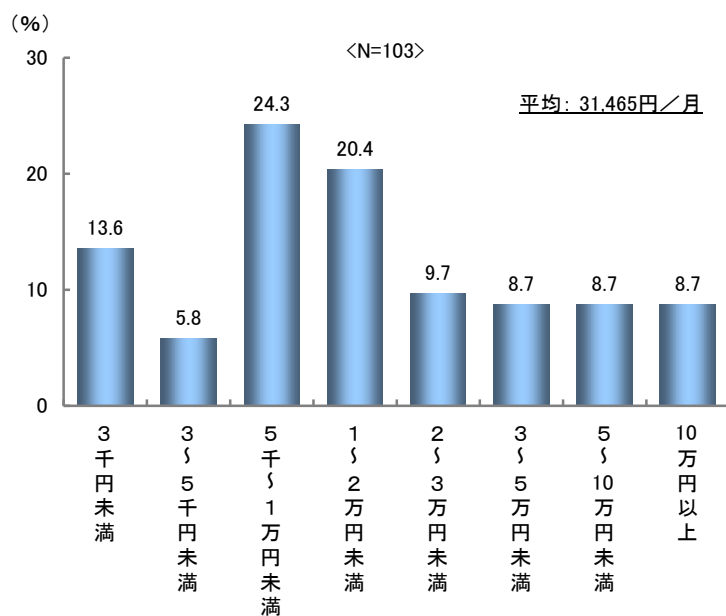
表 11. 健康維持や美容のための投資として、お金をかけてやっていること (自由回答)

順位		件数
1	エステに通っている	23
2	サプリメントや健康補助食品を摂取している	22
3	フィットネスクラブ・ジム等に通っている	18
4	ヨガに通っている	12
5	高めの化粧品を買っている	6
6	テニスをしている	5
7	美容院に行っている	4
	美容系の病院に通っている	4
9	ウォーキング・ランニングをしている	3
	ゴルフをしている	3
	脱毛サロンに通っている	3
	ネイルサロンに行っている	3

では、具体的にはどのようなことを行っているのでしょうか。自由回答で答えてもらった結果をみると、「エステに通っている」(23件)、「サプリメントや健康補助食品を摂取している」(22件)、「フィットネスクラブ・ジム等に通っている」(18件)、「ヨガに通っている」(12件)、「高めの化粧品を買っている」(6件)などとなっています。



図 29. 1 ヶ月にかかる金額

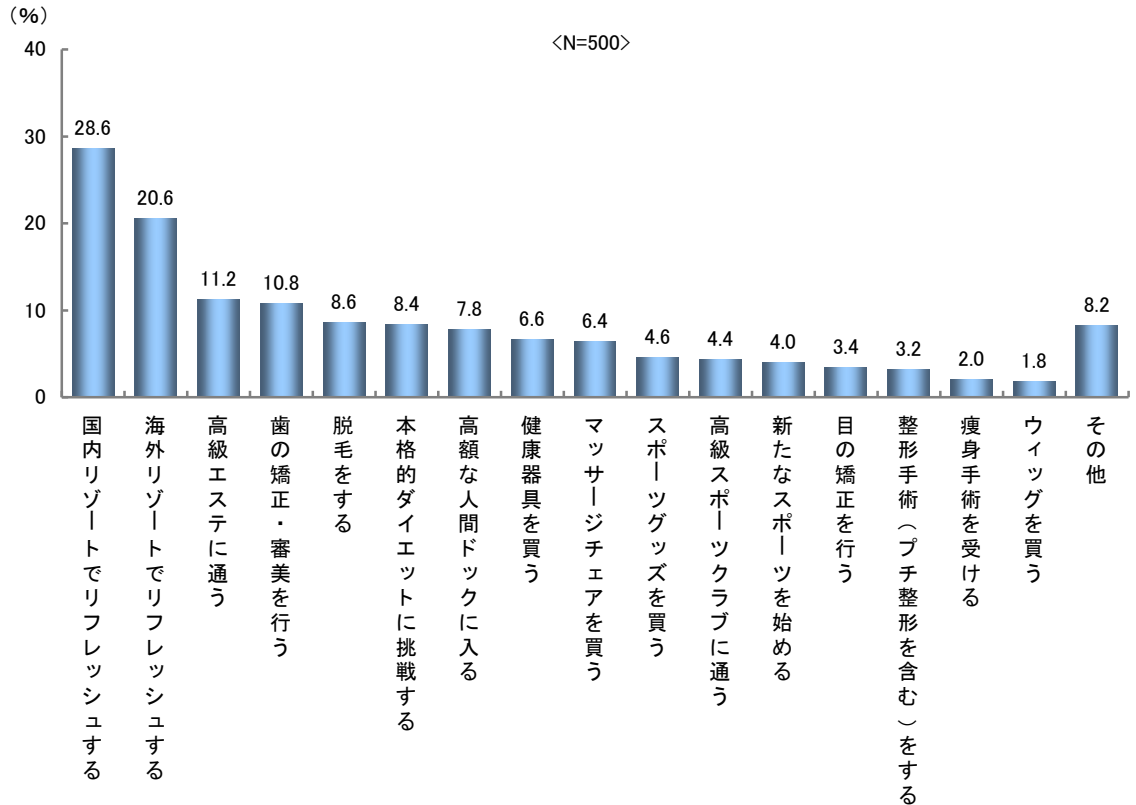


1 ヶ月にかかる金額は、「5千～1万円未満」(24.3%)、「1～2万円未満」(20.4%)の“1万円前後”が多く、以下「3千円未満」(13.6%)、「2～3万円未満」(9.7%)などが続いています。中には「10万円以上」(8.7%)もかけている人も少なくありません。平均は月に「31,465円」となっています。

## 2. もし、「自分の健康・美容に使うための 50 万円の臨時ボーナス」が支給されたら、何に使うか

「国内リゾートでリフレッシュする」(28.6%)、「海外リゾートでリフレッシュする」(20.6%)の“国内外のリゾートに行く”が多いほか、「高級エステに通う」(11.2%)、「歯の矯正・審美を行う」(10.8%)、「脱毛をする」(8.6%)、「本格的ダイエットに挑戦する」(8.4%)、「高額な人間ドックに入る」(7.8%)など、お金さえあればいろいろなことをやってみたい。

図 30. もし、「自分の健康・美容に使うための 50 万円の臨時ボーナス」が支給されたら、何に使うか（回答は2つまで）



妻の年代	20代 <n=125>	30代 <n=125>	40代 <n=125>	50代 <n=125>
国内リゾートでリフレッシュする	23.2	28.8	32.0	30.4
海外リゾートでリフレッシュする	20.8	19.2	20.8	21.6
高級エステに通う	12.8	12.8	12.0	7.2
歯の矯正・審美を行う	12.0	12.0	8.0	11.2
脱毛をする	12.8	15.2	4.8	1.6
本格的ダイエットに挑戦する	10.4	6.4	8.8	8.0
高額な人間ドックに入る	5.6	8.8	7.2	9.6
健康器具を買う	6.4	8.0	8.0	4.0
マッサージチェアを買う	5.6	8.0	7.2	4.8
スポーツグッズを買う	4.8	4.0	4.0	5.6
高級スポーツクラブに通う	12.8	1.6	-	3.2
新たなスポーツを始める	3.2	5.6	5.6	1.6
目の矯正を行う	4.8	2.4	0.8	5.6
整形手術（プチ整形を含む）をする	2.4	2.4	4.0	4.0
痩身手術を受ける	4.0	1.6	1.6	0.8
ウィッグを買う	0.8	5.6	-	0.8
その他	4.8	4.8	8.0	15.2

もし、「自分の健康・美容に使うための 50 万円の臨時ボーナス」が支給されたら、何に使うか聞いてみたところ、「国内リゾートでリフレッシュする」(28.6%)、「海外リゾートでリフレッシュする」(20.6%)と“国内外のリゾートに行く”が多くなっていますが、そのほか「高級エステに通う」(11.2%)、「歯の矯正・審美を行う」(10.8%)、「脱毛をする」(8.6%)、「本格的ダイエットに挑戦する」(8.4%)、「高額な人間ドックに入る」(7.8%)などさまざまなことがあげられており、お金があればやってみたいことはたくさんあるようです。

- ・妻の年代別では、あまり大きな違いはみられませんが、《20代》で「高級スポーツクラブに通う」(12.8%)が他の年代に比べて高くなっています。